

**令和4年度産業経済研究委託事業
(女性起業家支援に係る先進事例・支援機関連携スキーム稼働調査事業)**

**事業報告書
(ネットワーク共有版)**

2023年3月

EY新日本有限責任監査法人

目次

第1章 はじめに	2
1.1 本事業の背景と目的	3
1.2 本事業の全体像	8
第2章 伴走支援手法の再現性・有効性の検証による課題抽出・対策の提案および実施	10
2.1 調査設計	11
2.2 調査結果	25
2.3 伴走支援手法の課題抽出と対策の提案	39
2.4 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立・共有に向けた対処方針の実施	42
2.4.1 意見聴取の実施および応援団ネットワーク内での共有	44
2.4.2 支援一覧の提供	48
第3章 わたしの起業応援団ネットワークによる女性起業家支援のエコシステムのあり方	51
3.1 調査設計	52
3.2 アンケート調査結果	54
3.3 エコシステムのあり方の検討・提案	69
参考資料	72

第1章 はじめに

1.1 本事業の背景と目的

1.1 本事業の背景と目的：本事業の目的と実施項目

令和4年度産業経済研究委託事業 (女性起業家支援に係る先進事例・支援機関連携スキーム稼働調査事業)

目的

「わたしの起業応援団」（以下、本ネットワーク）の「女性起業家の支援事例や支援手法・関係省庁の施策情報の共有、女性起業家支援者の連携強化等により、女性起業家の事業環境の向上や支援体制、支援内容の充実を図り、起業・創業の活性化や女性起業家の成長・発展を促進する」という最終ゴールを達成するため、**令和3年度調査事業で実証した複数の支援機関による伴走支援のノウハウやスキームを、令和5年度から自立的・自律的な形で本ネットワーク内にて機能させることを目指す。**

実施項目

1. 対象とする女性起業家・女性起業希望者の年齢層や事業内容等のバリエーションを拡充し、さらに多くの支援機関を巻き込んだ伴走支援プログラムを実施する
2. 前年度スキームの再現性と有効性を検証し、本ネットワークでの本格稼働に向けた課題の抽出と対策の検討を実施する

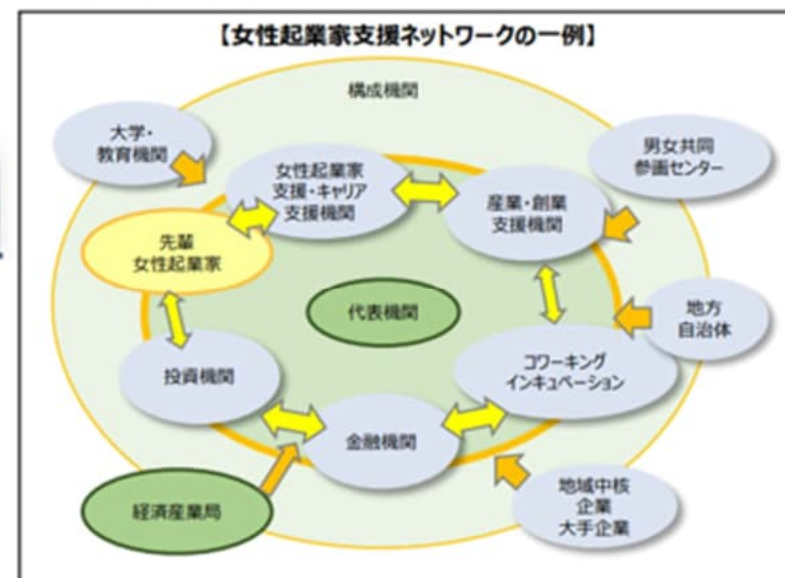
1.1 本事業の背景と目的：経済産業省は女性起業家に対する支援施策を各種実行

経済産業省による女性起業家支援施策

- ▶ 経済産業省は、女性の起業を支援するため、**地域の産業・支援機関等を中心とした「女性起業家等支援ネットワーク」**を形成し、起業を志すあらゆる段階にいる女性や、事業成長の課題を抱える創業間もない女性起業家を確実にフォローできる体制を構築すべく、女性のニーズに応じたきめ細やかな支援を実施しています。
- ▶ これまでの実施施策として、女性起業家等支援ネットワークに属する支援機関が行った支援を表彰する「女性起業家支援コンテスト」、3年間の事業実施により得られた優良事例をまとめた「ノウハウ集」の提供、企業支援に必要な知識やノウハウの習得と理解を促す「自治体担当者向け研修」などが行われてきました。
- ▶ 令和2年12月に「わたしの起業応援団」を設立し、全国約280の支援機関が会員として登録している（令和5年3月時点）。メルマガ配信、オンラインウェビナー開催、公式HP作成等を実施し、支援者同士が連携、ノウハウを共有しているところ。



女性起業家等支援ネットワーク



経済産業省による各種施策

令和2年10月 自治体担当者向け研修

各地の女性起業家を支援する重要なプレーヤーである地方自治体の職員向けに、経営者としての研修を実施。起業支援に必要な知識やノウハウの習得と理解を促す。

令和2年度は全国オンラインで実施。

研修参加のための地理的制約の解消を図る。全国どこからでも同時に、効率的に受講可能。

カリキュラム

- ・ノウハウ集の活用、女性起業家支援の重要性
- ・女性起業家支援事例の紹介
- ・ロールモデルの女性起業家も交えて、ディスカッション
- ・各地域での女性起業家支援のあり方についてWS・発表
- ・女性起業家支援者からフィードバック

令和元年4月 ノウハウ集

平成28年度～平成30年度の3年間の事業で得られた優良事例をまとめたノウハウ集を作成。

「わたしの起業応援団」のHPに掲載。

平成30年12月 女性起業家支援コンテスト

女性起業家支援モデルの創出や各地域への啓蒙を目的に、「女性起業家支援ネットワーク」に属する支援機関が行った女性起業家支援の取り組みを表彰する「女性起業家支援コンテスト（ジョッキコン）」を開催。

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jintai/joseikisyasaku/pdf/knowhow.pdf>

出所）経済産業省

わたしの起業応援団

わたしの起業応援団

「わたしの起業応援団」は、起業したい女性を応援する全国の応援者の情報交換・連携ネットワークです。

～私が始めた女性の皆様へ、ここにあなたの能力は応援団に出会えるかもしれません。～女性のチャレンジを応援する皆様へ、全国に広がるこのネットワークを拡大していきましょう。

詳しくは、それぞれの応援団をクリック！してみてください

起業したい女性向けページ

どんな応援が受けられるの？「わたしの地域で応援したい人」は？
私も起業しようかな！という方へ

起業を応援したい女性向けページ

どんな人が応援団に入るの？応援団に入る方法

よくあるご質問

わたしの起業応援団について、よくあるご質問をまとめたページです。

お問い合わせ

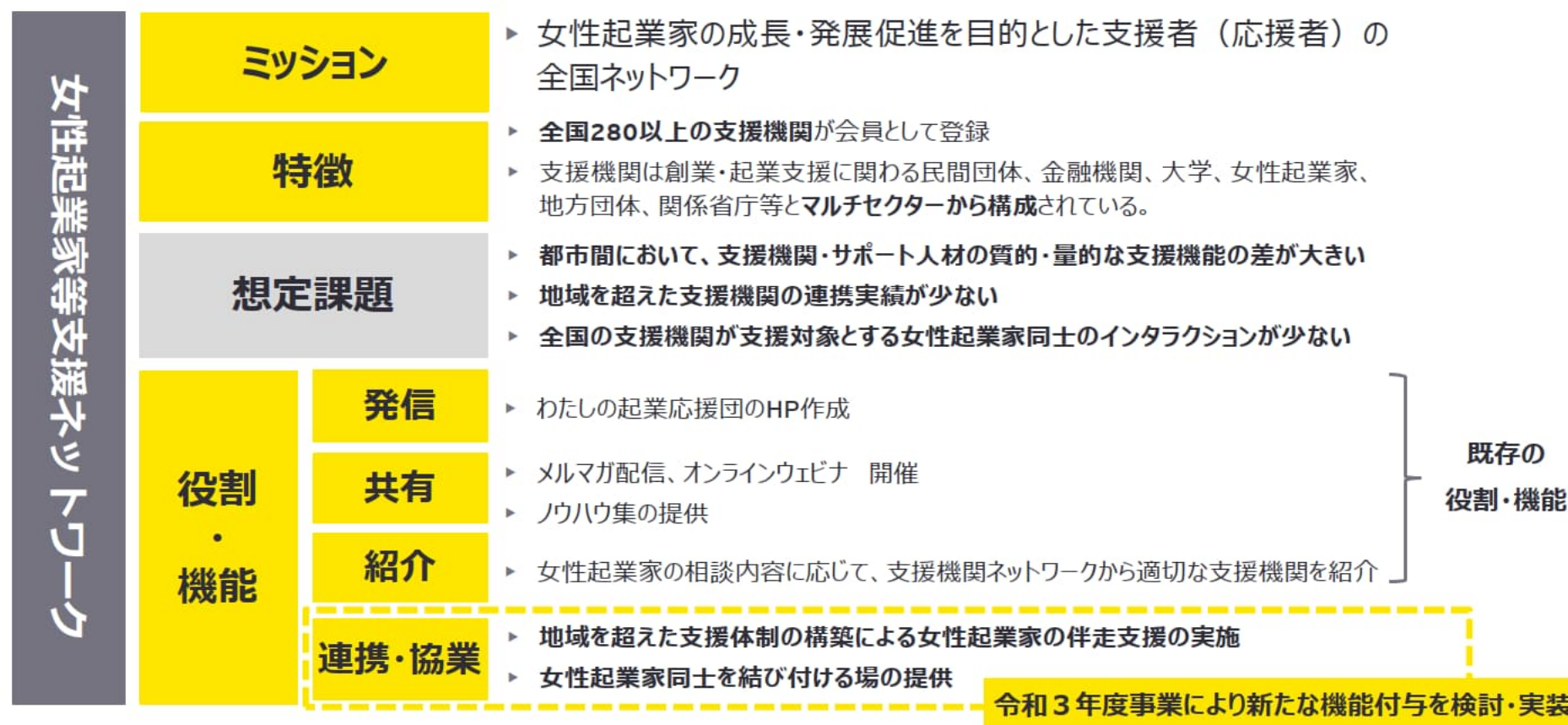
これまでのご支援者の応援機関

経営者として応援したい女性を応援する方へ

1.1 本事業の背景と目的：支援機関ネットワークの想定課題を踏まえた機能強化に向けて

- ▶ 令和3年度産業経済研究委託事業（女性起業家支援に係る支援のあり方及び支援者連携スキームに係る調査）（以下、令和3年度事業と記載）において、全国約280の支援機関が参画している女性起業家等支援機関ネットワークの特徴を活かし、**地域やセクターを超えた支援体制を構築することで、女性起業家に対する新たな支援モデルを試行**しました。これにより、**女性起業家等支援ネットワークの役割・機能に「地域を超えた連携・協業」を追加し、女性起業家等支援ネットワークの価値向上を図りました**。また、得られた課題やノウハウを既存の共有機能を活用し、ネットワーク内で共有することも行いました。

＜令和3年度事業における女性起業家等支援ネットワークの役割・機能の拡充＞

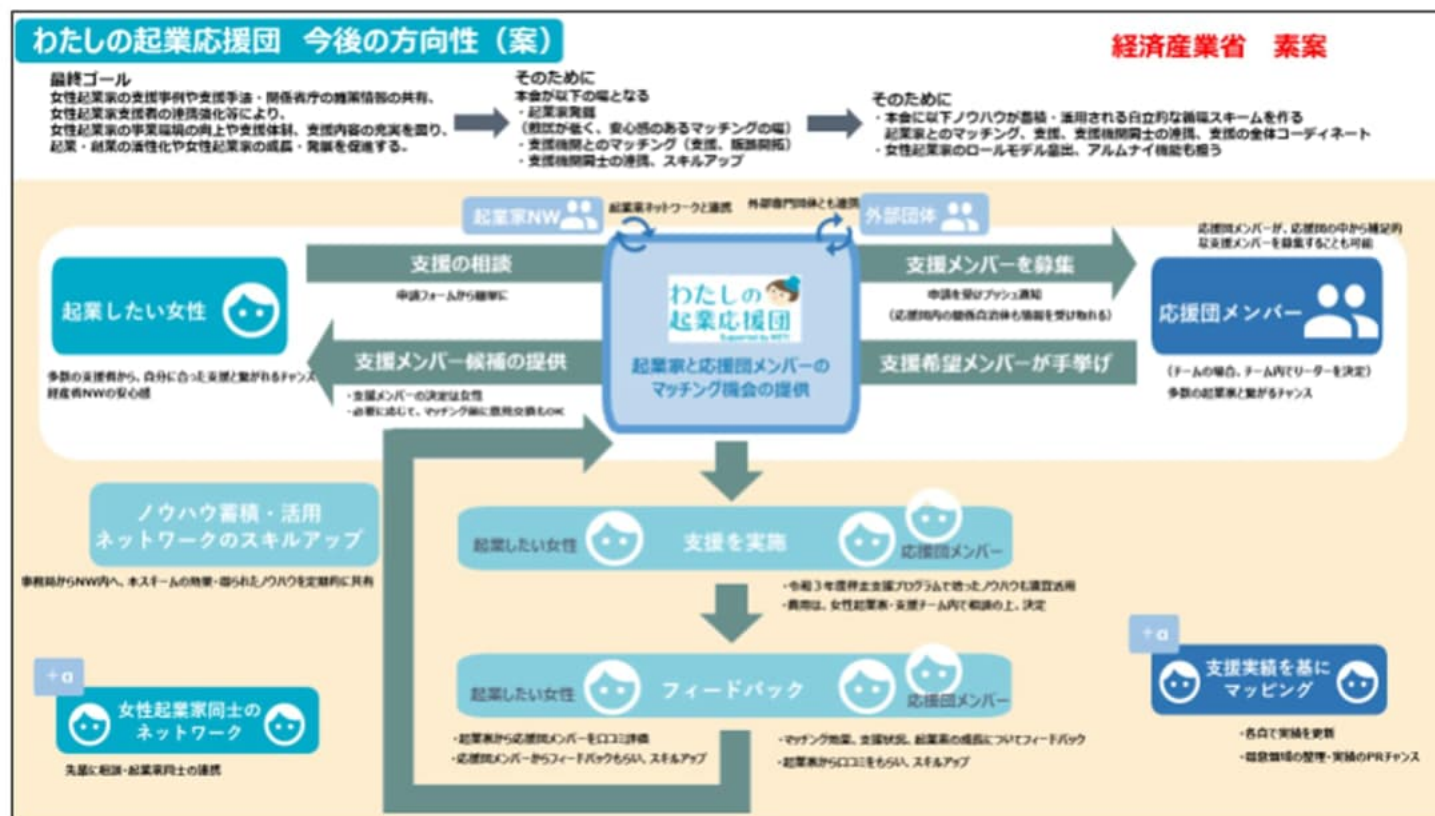


1.1 本事業の背景と目的：女性起業家支援のエコシステムの今後の方向性

- ▶ 本事業において、本ネットワークに連携型伴走支援機能を始めとする各種機能が備わり、活用されるような女性起業家支援のエコシステムを目指します。経済産業省が提示する、本ネットワークの今後の方向性（案）に基づき、本ネットワークの最終ゴール達成のため、令和5年度以降に実際に稼働可能な再現性・有効性の高い女性起業家支援全体のエコシステムのあり方を検討、提案します。

本ネットワークの 最終ゴール

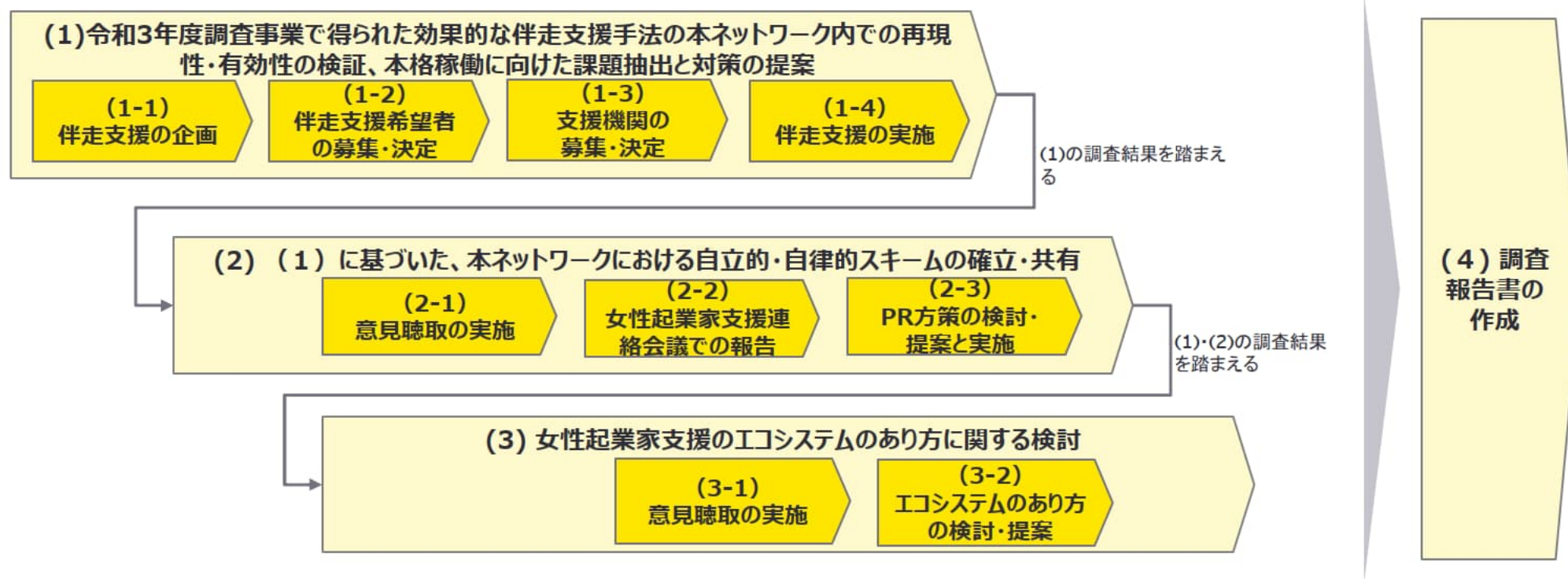
- ▶ 女性起業家の支援事例や支援手法・関係省庁の施策情報の共有、女性起業家支援者の連携強化等により、女性起業家の事業環境の向上や支援体制、支援内容の充実を図り、起業・創業の活性化や女性起業家の成長・発展を促進する



1.2 本事業の全体像

1.2 本事業の全体像

- ▶ 本事業では、本ネットワークの最終ゴール達成に向けて (1)令和3年度調査事業で得られた効果的な伴走支援手法の本ネットワーク内での再現性・有効性の検証、本格稼働に向けた課題抽出と対策の提案 において効果的なノウハウやスキームを調査し、本調査結果を踏まえて (2)本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立・共有、(3) 女性起業家支援のエコシステムのあり方に関する検討 を行います。これらの一連の成果を (4) 事業報告書の作成 において調査報告書としてとりまとめ、支援機関ネットワーク内の知見として共有・蓄積しつつ、次年度以降の事業形成に資するものとします。



本ネットワークの最終ゴール

- ▶ 女性起業家の支援事例や支援手法・関係省庁の施策情報の共有、女性起業家支援者の連携強化等により、女性起業家の事業環境の向上や支援体制、支援内容の充実を図り、起業・創業の活性化や女性起業家の成長・発展を促進する

第2章 伴走支援手法の再現性・有効性の検証による 課題抽出・対策の提案および実施

2.1 調査設計

2.1 調査設計：前提（令和3年度事業で得られた知見）

- ▶ 本事業では、令和3年度事業で得られた知見を踏まえ、本事業における再現性と有効性を検証しました。
- ▶ 令和3年度事業から得られた知見は以下のとおりです。

令和3年度事業から得られた知見

女性起業家 に対する効果

- ▶ 複数の支援機関からの助言を受けることで、取捨選択等の意思決定を繰り返し経験できるため、経営者として大事な決断力が培われる。
- ▶ 1対1（メンターと起業家）のメンタリング形態だと、メンターの助言が真に活用できるかの判断が難しい場合もあるが、複数機関から多角的な意見が提供されることで、選択肢が広がり、起業活動にすぐに活かすことができる。

支援機関に 対する効果

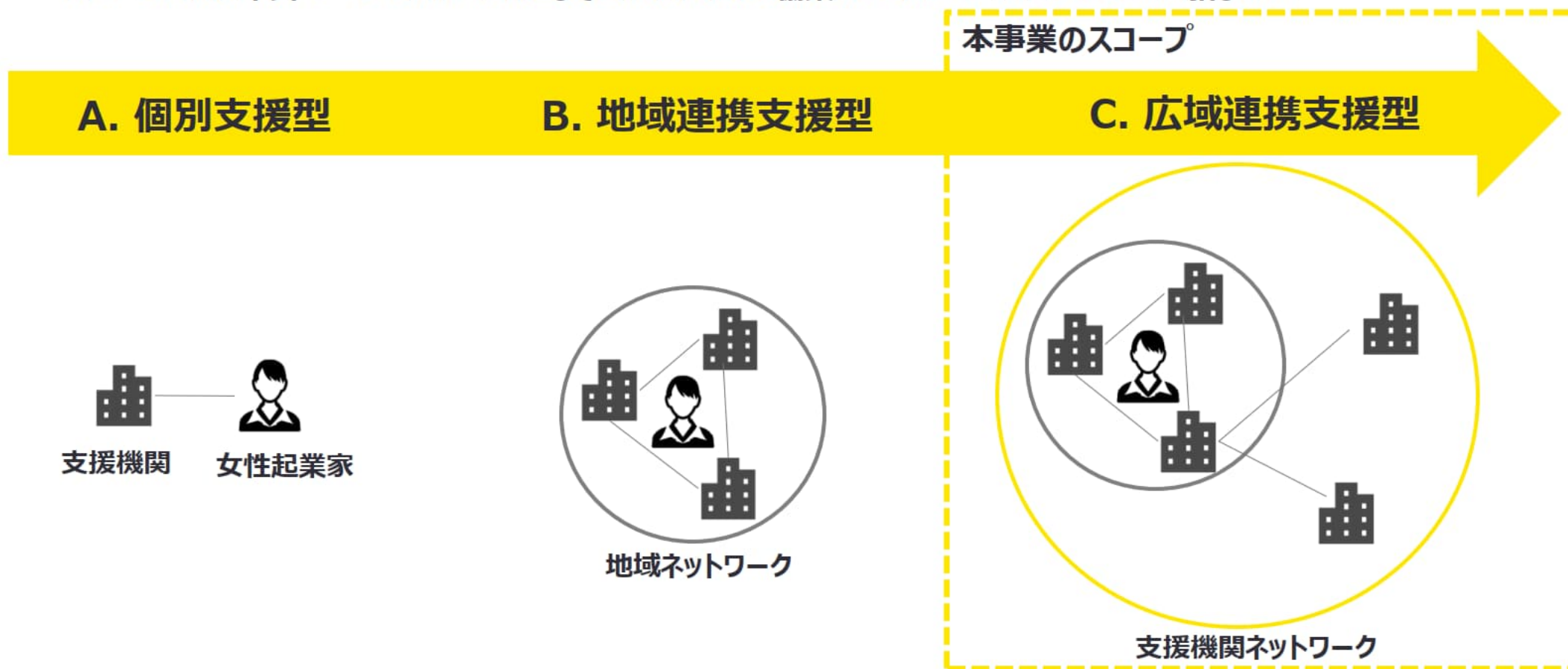
- ▶ 他の支援機関と連携した伴走支援を行うことにより、他の支援機関のメンタリングが相互の知見となる。
- ▶ 他の支援機関とのネットワークや新たな人脈形成につながり、伴走支援期間の終了後も、女性起業家に対する伴走支援や、支援機関同士の関係性が継続。

わたしの起業 応援団に対する効果

- ▶ 伴走支援より得られた知見やノウハウ、体験談をネットワークに所属する支援機関に共有することで、各支援機関の知見やスキルの向上に加えて、ネットワーク全体の機能向上に貢献。
- ▶ 本事業に参加した支援機関に、支援チームによる伴走支援の価値を広めていくアンバサダーのような役割を付与することで、ネットワーク内での自律的な支援活動の活発化が期待される。

2.1 調査設計：伴走支援体制の考え方

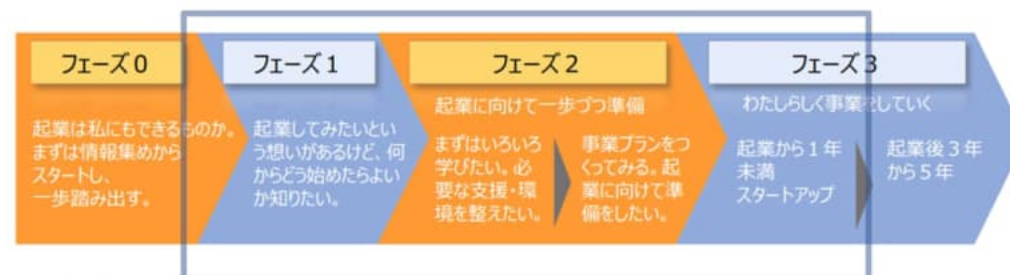
- ▶ 現状、女性起業家に対して全国の支援機関により多様な支援が提供されています。これらは主に、下記に示すとおり、1つの支援機関が1人の女性起業家を支援する「A.個別支援型」の取組が大半を占め、ある地域の支援機関が連携した「B.地域連携支援型」の取組も見られますが、地域を超えた支援については令和3年度事業で取り組んだものの、まだ先進事例は少ないです。
- ▶ **令和3年度伴走事業の支援体制を踏襲し**、本事業において支援機関ネットワークの強みを活かし、地域ネットワークによる連携をこえた「C.広域連携支援型」による体制を構築し、女性起業家に対する創業支援を多角的・多面的に実施することで相乗効果を生み出し、支援機関ネットワークの機能・役割として支援機関による協業をさらに実装・強化することを目指します。



2.1 調査設計：支援対象の考え方

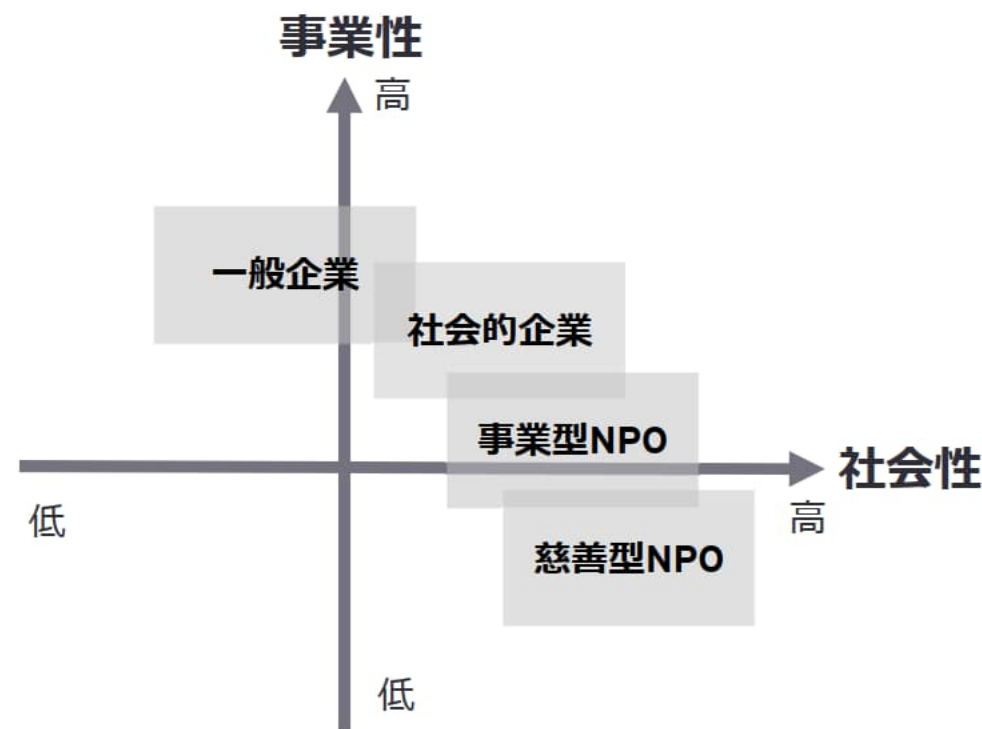
- ▶ 令和3年度調査事業では社会課題解決型の起業を目指す若年層の女性起業家を支援対象としました。
- ▶ 本事業は、次年度以降、支援機関ネットワークが自立的・自律的なスキームを機能させることを目的として、**支援する女性起業家の年齢層や起業分野、企業規模、起業フェーズ等を多様化**させることを目指します。
- ▶ そのため、本事業では、年齢18歳以上（高校生を除く）の女性（性自認の女性を含む）のうち、**企業準備段階であるフェーズ1（起業してみたい思いがあり、何からどう始めたら良いかを知りたい）からフェーズ3の前半（起業から1年未満であり、事業プランのブラッシュアップをしたい）の起業家を対象とします。**
- ▶ また、起業分野も事業性・社会性に関係なく、**幅広い分野の起業家を対象とします。**
- ▶ 応募の形態として、「①推薦者となる支援機関（コア機関）と起業希望者での応募」、「②起業希望者のみでの応募」の2種類の応募方法を設定します。

① 本事業の支援対象：フェーズ



出所) 経済産業省

② 本事業の支援対象：起業分野



出所) 経済産業省「ソーシャルビジネス研究会報告書」より改変

2.1 調査設計：伴走支援の考え方

- ▶ 起業希望者に対して「支援チーム」が中心となり、経済産業省、事務局とも相談の上、起業希望者と個別に対話しながら、オーダーメイド型の伴走支援を行います。
- ▶ 具体的には、マインド、スキル、ノウハウ、ネットワークの4つの側面から「支援チーム」による伴走支援を行い、起業希望者が応募時に設定した起業にかかる目標の達成を目指します。



2.1 調査設計：支援機関の募集と選定

支援者募集・選定の考え方

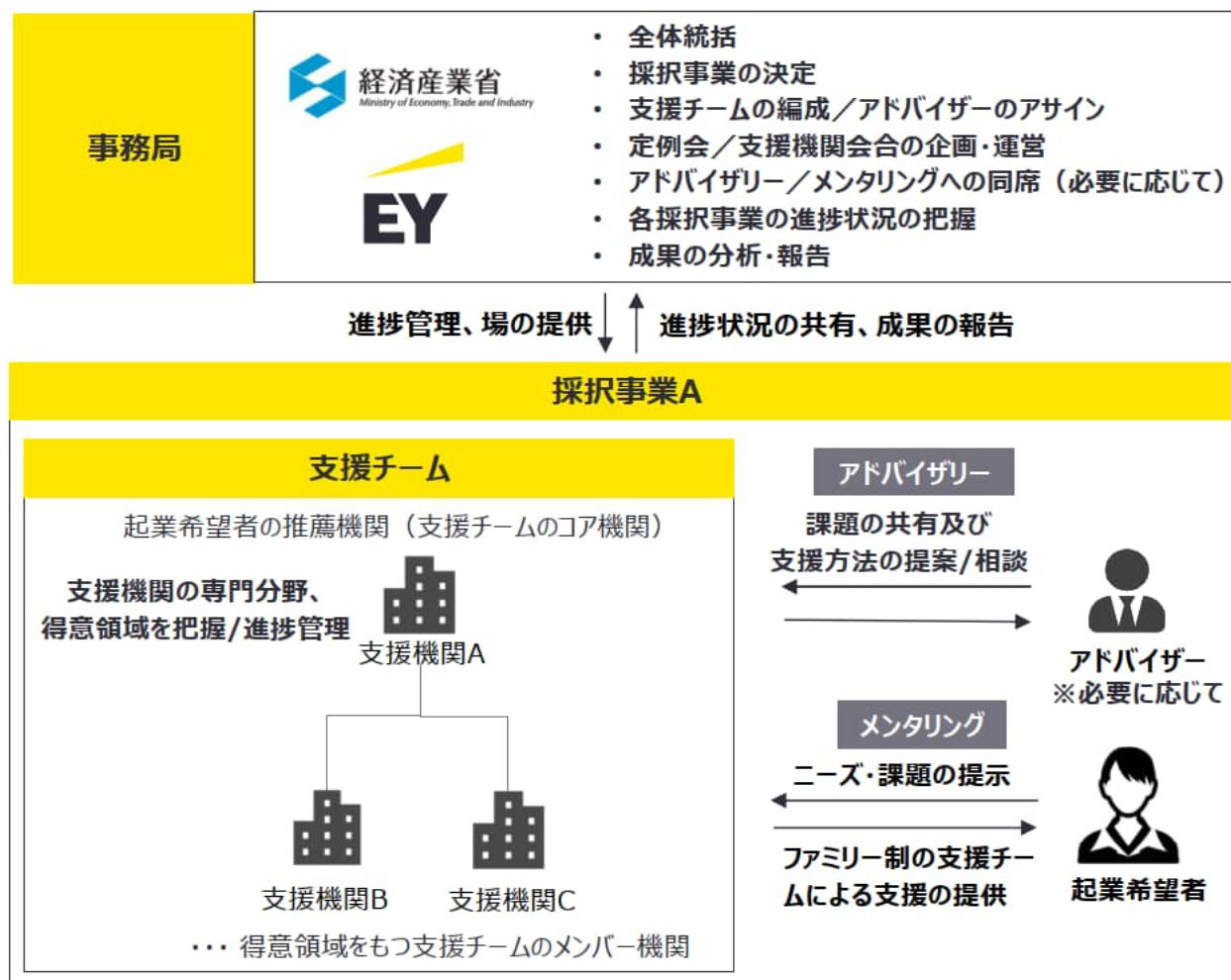
1. 起業希望者を推薦した支援機関（コア機関）を核として支援チームを構築します
2. 起業希望者のみでの応募の場合、起業家が期待する優先度が高い支援内容を実現できるコア機関を選定します
3. 支援チームのメンバー機関となる支援機関は、核となるコア機関で不足している機能を中心に選定します
4. 起業家の事業内容や求める支援を提示した上で、支援機関を募集することで効果的なチーム形成を行います

支援機関の機能大分類	グループ	支援機関のカテゴリー
場の提供・ 連携推進	グループ1	地方自治体 (商工・産業支援部局) (男女共同参画センター)
ライフのサポート	グループ2	女性起業家支援団体 地域のNPO コワーキング・インキュベーション
	グループ3	子育て等の両立支援団体・先輩起業家
ワークのサポート	グループ4	総合支援 産業・創業支援機関 商工会・商工会議所
	グループ5	専門支援（ビジネスモデル構築など社会課題解決型 起業で特に困難な支援を含む） 金融機関・投資機関 等 地域企業・大手企業

支援チームは核となるコア機関で不足している機能を補うグループから構成します

2.1 調査設計：伴走支援体制の考え方

- ▶ 起業希望者に対して「支援チーム」が中心となり、経済産業省、事務局とも相談の上、起業希望者と個別に対話しながら、**オーダーメイド型の伴走支援**を行います。
- ▶ 「推薦者となる支援機関（支援チームのコア機関）」は、本プログラムの伴走支援の中心となり、「2～3者程度の支援機関（支援チームのメンバー機関）」と連携して、「支援チーム」を結成し、起業希望者を支援します。



2.1 調査設計：伴走支援の実施方法

- ▶ 伴走支援方法として、(1) メンタリング、(2) 定例会、(3) 支援機関会合、の3つの場を企画し、運営します。これらの会合は基本的には、オンライン会議により開催します。
 - ▶ (1) メンタリング：起業希望者に対し、支援チームが伴走支援を行うメンタリングを月2回程度の頻度で実施します。
 - ▶ (2) 定例会：伴走支援プログラムに参加する全ての起業希望者、アドバイザー、支援機関が集う場を設定し、目標設定・進捗状況・最終成果を報告いただきます。また、ゲストスピーカーを招き、女性起業家の育成に資するテーマでの講演と各事業からの報告内容に応じたディスカッションにおいて助言を行います。
 - ▶ (3) 支援機関会合：アドバイザーと支援機関とで、起業希望者に対する支援内容と方法を検討する会合を月1回程度の頻度で実施します。

伴走支援方法（案）

	参加者	開催頻度・時間	開催内容
(1) メンタリング	▶ 各起業希望者 ▶ アドバイザー ▶ 各支援機関 ▶ 事務局（必要に応じて）	▶ 月1～2回程度（計5～10回） ▶ 1～2時間／回	▶ 顔合わせ、ニーズ・課題の抽出（第1回） ▶ 目標設定、計画策定（第2回） ▶ 目標達成に向けたメンタリング（第3～8回） ▶ 振り返り（第9回）
(2) 定例会	▶ 全ての起業希望者 ▶ 全てのアドバイザー ▶ 全ての支援機関 ▶ ゲスト（有識者・女性起業家） ▶ 事務局	▶ 計2回程度 ▶ 1.5時間／回	▶ 目標・計画の共有（第1回）セミナー、ディスカッション ▶ 結果の報告（第2回）セミナー、ディスカッション
(3) 支援チーム会合	▶ アドバイザー ▶ 各支援機関 ▶ 事務局（必要に応じて）	▶ 計2～3回程度 ▶ 1～1.5時間／回	▶ ニーズ・課題の分析と目標案、支援方法の検討（第1回） ▶ 目標達成に向けた支援手法検討（第2回） ▶ 振り返り（第3回）

2.1 調査設計：伴走支援の実施スケジュール

▶ 伴走支援の実施スケジュール案は下記にて実施します。

- ▶ 各事業の進捗状況や支援チームが提供する支援内容に応じて、メンタリングの回数や時期を調整いただきます。
- ▶ 第1回メンタリングはキックオフとして、事務局で場の設定を行いました。第2回以降はコア機関を中心に日程調整をお願いします。

項目		2022年度												
		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
(1) メンタリング	マイルストーン	▼ 第1回		▼ 第2回 ▼ 第3回		▼ 第4回 ▼ 第5回		▼ 第6回 ▼ 第7回		▼ 第8回 ▼ 第9回				
	開催内容	顔合わせ、ニーズ・課題の抽出		目標設定・計画策定		目標達成に向けたメンタリング						振り返り		成果報告の確認
(2) 定例会	マイルストーン			▼ 第1回								▼ 第2回		
	開催内容			▶ 目標・計画の共有 ▶ セミナ・ディスカッション								▶ 最終結果の報告 ▶ セミナ・ディスカッション		
(3) 支援機関会合 (各支援チームごとに実施)	マイルストーン			▼ 第1回		▼ 第2回						▼ 第3回		
	開催内容			▶ ニーズ・課題の分析と目標案、支援方法の検討			▶ 進捗状況の共有 ▶ 目標達成に向けた支援手法検討				▶ 振り返り			

2.1 調査設計：伴走支援の実施内容① 目標設定・計画策定

10月～11月上旬

第1回メンタリング (キックオフ)

- ▶ 支援チームの顔合わせを行い、事業説明やこれまでの支援についてご説明いただきます。
- ▶ 目標設定・計画策定につなげるためのニーズ・課題の深堀を行います。

第2回メンタリング (目標設定・計画策定)

- ▶ 伴走支援における大目標、それに紐づく小目標を設定いただきます。
- ▶ 目標の達成に向けた役割分担を明確にし、支援計画を作成します。

エクセルの管理ツールを提供し、必要に応じて、コア機関にご利用いただきました。

11月上旬～中旬

第1回支援チーム会合 (各支援チームごとに実施)

- ▶ 各支援チームの支援機関・アドバイザーが集い、目標と計画・支援内容に関する説明・課題の共有と質疑応答・意見交換により、支援のブラッシュアップを行います。

11月上旬～中旬

第1回定例会 (目標・計画の共有)

- ▶ 各事業15分程度の時間をとり、事業・チーム紹介、目標と計画に関する説明と質疑応答・意見交換により事業のブラッシュアップを行います。
- ▶ テーマを設定したセミナーを開催し、女性起業家としての成長につなげます。

2.1 調査設計：伴走支援の実施内容② 目標達成に向けたメンタリングと振り返り

11月～12月上旬

第3～4回メンタリング

- ▶ 目標達成に向けたメンタリングを行います。



12月中～下旬

第2回支援チーム会合 (各支援チームごとに実施)

- ▶ 各支援チームの支援機関・アドバイザーが集い、伴走支援の進捗状況・今後の計画に関する説明・課題の共有と質疑応答・意見交換により、支援のブラッシュアップを行います



12月中旬～1月下旬

第5～7回メンタリング

2月上～中旬

第8回メンタリング

- ▶ 目標達成に向けたメンタリングを行います。



第9回メンタリング (振り返り)

- ▶ 伴走支援の振り返りを行い、目標と計画の達成度合いについて確認します。
- ▶ 伴走支援期間中に直面した課題と解決策、今後のアクションについて整理します。



2月中～下旬

第2回定例会 (振り返り)

- ▶ 各事業15分程度の時間をとり、最終結果の報告、質疑応答・意見交換により伴走支援を振り返り、課題と解決策、今後のアクションについて整理します。
- ▶ テーマを設定したセミナーを開催し、女性起業家としての成長につなげます

2月中～下旬

第3回支援チーム会合 (各支援チームごとに実施)

- ▶ 各支援チームの支援機関・アドバイザーが集い、最終結果の報告、質疑応答・意見交換により伴走支援を振り返り、課題と解決策、今後のアクションについて整理します。

2.1 調査設計：目標設定・役割分担（エクセル管理ツールのイメージ）

ニーズ・課題：



大目標：

達成時期：

	小目標①：	メンバー機関①：	支援内容①：
	達成時期：		支援期間・頻度：
	小目標②：	メンバー機関②：	支援内容②：
	達成時期：		支援期間・頻度：
	小目標③：	メンバー機関③：	支援内容③：
	達成時期：		支援期間・頻度：
	小目標④：	メンバー機関④：	支援内容④：
	達成時期：		支援期間・頻度：

※ニーズ・課題を抽出し、目標設定と役割分担を行う（コア機関も小目標を担う場合がある）

2.1 調査設計：目標達成に向けたメンタリング計画の策定と実行（エクセル管理ツールのイメージ）

大目標：		
達成時期：		
小目標①：	メンバー機関①：	支援内容①：
達成時期：		支援期間・頻度：
第〇回 メンタリング 時期： 計画： 日時： 実行内容：	第〇回 メンタリング 時期： 計画： 日時： 実行内容：	...

※大目標・小目標の達成に向け、ステップに分解して複数回のメンタリングを計画・実行

2.1 調査設計：振り返り（エクセル管理ツールのイメージ）

大目標：		
達成度合い：		
小目標①：	メンバー機関①：	支援内容①：
達成度合い：		支援期間・頻度： 支援実施結果：
小目標②：	メンバー機関②：	支援内容②：
達成度合い：		支援期間・頻度： 支援実施結果：
小目標③：	メンバー機関③：	支援内容③：
達成度合い：		支援期間・頻度： 支援実施結果：
小目標④：	メンバー機関④：	支援内容④：
達成度合い：		支援期間・頻度： 支援実施結果：
課題・改善点：		
今後のアクション：		

※大目標、小目標の達成状況と実施状況を振り返り、伴走支援における課題・改善点を抽出

2.2 調査結果

2.2 調査結果：起業希望者と支援機関の募集と選定

① 起業希望者と支援機関（コア機関）の募集

- ▶ 起業希望者を募集しました（①推薦者となる支援機関と起業希望者での応募、②起業希望者のみでの応募）
- ▶ 募集期間：2022年7月25日～8月15日
- ▶ 説明会：2022年7月29日 16:00-16:30

経済産業省 令和4年度 わたしの起業応援団

わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム

経済産業省は、「わたしの起業応援団」に参加する全国の支援機関と連携し、起業を志す女性へ伴走支援を提供するプログラムを実施します。全国の支援機関がそれぞれの強みやノウハウを出し合うことで、広域的・多角的な支援を行います。本プログラムを通じて、女性の社会参画を後押しする一つのきっかけとなることを期待しています。

募集期間
2022.7.25（月）～
2022.8.15（月）まで
（12:00～18:00）

説明会：7月29日（金）
16:00～16:30

女性起業家のみでも応募を受け付けます！
応募の役割は募集要項をご覧ください

募集対象	① 推薦者となる支援機関と起業希望者での応募	② 起業希望者のみでの応募
起業希望者	- 起業を目指すもしくは直近起業した女性（チームでも応募可）	-
推薦者となる支援機関（コア機関）	- 「わたしの起業応援団」会員 - 起業希望者を推薦する機関（起業希望者とペアで応募する場合） - 本プログラムの伴走支援の中心となり、2～3者程度の支援機関（ネットワーク会員より募集）と「支援チーム」を構成し、起業希望者のニーズに合わせた支援を行う機関	-
支援内容	「支援チーム」が中心となり、起業希望者と個別に相談しながら、マインド、スキル、ノウハウ、ネットワークの4つの側面から、「支援チーム」によるオーダーメイド型の伴走支援を行います。伴走支援として、起業希望者の起業にかかる目標（女性起業家としての成長、起業の推進）の達成を目指します。	
支援期間	8月 起業希望者、コア支援機関の募集・決定 9月 支援メンバー支援機関（2～3者）の募集・決定 10月～2月 伴走支援の実施 3月 伴走支援の成果とりまとめ	

参加費：原則無料
※活動内容により、別途費用が発生する場合があります

昨年度参加者の声

女性起業家より
地域のしがらみがなく相談しやすかったです。様々な事業の方々が多方面からの意見をくれるので、すぐに活かすことができました。

コア機関より
支援チームの構築・運営を任せられることで、複数の専門系からの意見をとりまとめ、起業家に伝える技術を増えました。

問い合わせ先：
経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策課 E-mail: kyosei.kisyoku@meti.go.jp
令和4年度「わたしの起業応援団」による女性起業家支援プログラム事務局 EY新日本有価証券監理人
担当：員（ペイ）、野田（ゴウ）、小沼（コナ） E-Mail: ey.qps@jp.ey.com

② 支援機関（メンバー機関）の募集

- ▶ 起業希望者に対してコア機関を含めた2～3者程度の支援機関を募集し、支援チームを構成しました
- ▶ 募集期間：2022年9月16日～9月30日
- ▶ 説明会：2022年9月21日 15:00-15:30

経済産業省 令和4年度 わたしの起業応援団

わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム

経済産業省は、「わたしの起業応援団」に参加する全国の支援機関と連携し、起業を志す女性へ伴走支援を提供するプログラムを実施します。全国の支援機関がそれぞれの強みやノウハウを出し合うことで、広域的・多角的な支援を行います。本プログラムを通じて、女性の社会参画を後押しする一つのきっかけとなることを期待しています。

募集期間
2022.9.16（金）～
2022.9.30（金）まで
（12:00～18:00）

説明会：9月21日（水）
15:00～15:30

本プログラムによる支援事業を決定しました！全国ネットワークの強みを活かした広域的・多角的な支援を展開するため、地域を超えて全国の支援機関からの応募を広く受け付けています！

事業① 多世代が集い「まちの暮らし」と「海」の未来をつくる「うみまち食堂」事業
事業② 妊活中・妊娠中・授乳中および産後の女性が利用できる美容施設の検索・予約ができるアプリの開発（コア機関も同時募集）
事業③ 運転免許返納で車を手放した買い物者への安心同行・送迎サービス～見守りコジエージュ～

募集対象	支援機関
- 「わたしの起業応援団」会員 - 上記3つの支援事業のいずれかを支援する機関（複数の支援事業への応募も可） - 「支援チーム」のメンバー機関・コア機関として、起業者のニーズに応じて支援を行う機関 ※コア機関の募集は事業②のみ	
支援内容	1事業あたり2～3者程度の支援機関を採択し、「支援チーム」として構成します。採択機関は、「支援チーム」のメンバー機関・コア機関として、起業希望者と個別に相談しながら伴走支援を行い、起業希望者の起業にかかる目標（女性起業家としての成長、起業の推進）の達成を目指します。
支援期間	9月 支援チームとなる支援機関（2～3者）の募集・決定 10月～2月 伴走支援の実施 3月 伴走支援の成果とりまとめ

参加費：原則無料
応募の役割は募集要項をご覧ください

昨年度参加者の声

メンバー機関より
得意分野のない専門系と新たな人脈を形成できました。経験・スキル・活動地域もさまざまで、自身の勉強にもなりました。

コア機関より
支援チームの構築・運営を任せられることで、複数の専門系からの意見をとりまとめ、起業家に伝える技術を増えました。

問い合わせ先：
経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策課 E-mail: kyosei.kisyoku@meti.go.jp
令和4年度「わたしの起業応援団」による女性起業家支援プログラム事務局 EY新日本有価証券監理人
担当：員（ペイ）、野田（ゴウ）、小沼（コナ） E-Mail: ey.qps@jp.ey.com

2.2 調査結果：採択事業・支援チームのご紹介

- ▶ 募集の結果、①起業希望者とコア機関のペア、②起業希望者のみを採択し、3～4者のメンバー機関から構成される支援チームを構成しました。
- ▶ さらに、支援機関の募集においてコア機関を選定した支援チームに対して、伴走支援を助言する立場としてアドバイザーを配置し、協力を得ながら進めました。

(敬称略)

No	事業名	代表者	コア機関	メンバー機関	アドバイザー	活動地域
1	多世代が集い“まちの暮らし”と“海”の未来をつくる「うみまち食堂」事業	池田 美紀	公益財団法人わかやま産業振興財団 太田 佳宏	- 株式会社スリーデイズ - 株式会社ゆいネット - ドルフィンワークス株式会社	-	和歌山県
2	妊活中・妊娠中・授乳中および産後の女性が利用可能な美容施術の検索・予約ができるアプリを開発し、女性の心とからだの健康維持に貢献する。	大久保 綾華	株式会社キャリア・マム 堤 香苗	- 学び舎mom株式会社 - webマーケティング	伊藤 智久 明星大学経営学部 経営学科 准教授	東京都
3	千葉県限定：運転免許返納で車を手放した買い物弱者への安心同行・送迎サービス ～見守りコンシェルジュ～	秋谷 未希	株式会社キャリア・ジョセフィーヌ 関 優子	- 公益財団法人 千葉県産業振興財団 - エマール経営法律事務所	-	千葉県

※代表者はお名前掲載のご承諾をいただいた方のみ掲載しています

2.2 調査結果：キックオフ会合の開催

- ▶ 伴走支援の開始時に、女性起業家、コア機関、メンバー機関、アドバイザーの顔合わせの場として、事務局の調整によりキックオフ会合を開催しました。開催日時と開催概要は下記のとおりです。
- ▶ 女性起業家と支援チームの皆さまが初めて集う機会のため、自己紹介時にアイスブレイクを設けるなど、お互いの人となりが分かるような発言を促す工夫をしました。

<開催日時>

- ▶ 事業① 10月25日（火） 10:30-12:00
- ▶ 事業② 10月31日（月） 10:30-12:00
- ▶ 事業③ 10月31日（月） 10:30-12:00

<開催概要>

No	プログラム	詳細	担当
1	ご挨拶		METI
2	本日の進め方・伴走支援の進め方		EY
3	自己紹介	・女性起業家 ・推薦者となる支援機関 ・メンバー機関 ・アドバイザー	各参加者
4	質疑応答・意見交換	・期待する支援内容 ・ニーズ・課題の深堀 ・大目標・小目標の検討 ・コミュニケーション方法の検討	各参加者
5	今後の進め方	・今後の予定・進め方の確認	EY
6	ご挨拶		METI

2.2 調査結果：目標・計画の策定とメンタリングの実施

- ▶ キックオフ会後は、コア機関が中心となり、約5か月間の伴走支援において女性起業家に対するメンタリングを実施しました。
- ▶ メンタリングの実施にあたり、各事業において、女性起業家のニーズ・課題を踏まえて、支援チームの大目標と大目標の達成時期、各メンバー機関の小目標と小目標の達成時期を設定いただきました。
- ▶ コア機関がこれらの目標設定を行うにあたり、普段からの女性起業家とのやり取りに加え、本事業におけるキックオフ会合やメンタリング、支援機関会合の場をご活用いただきました。

<各事業のニーズ・課題、大目標、大目標の達成時期>

	事業①	事業②	事業③
ニーズ・課題	・人的ネットワーク、ロールモデル ・マーケティング、IT活用 ・リーダーシップ ・資金調達 ・古民家の活用	・課題検証 ・事業計画 ・マーケティング ・IT活用ノウハウ ・人的ネットワーク	・経営的視座・起業家精神 ・マーケティング ・デザイン、販促 ・法務
大目標	顧客に価値を提供できるビジネスを展開するため、事業計画をブラッシュアップし、ニーズを反映させて発信できている状態	課題検証および事業計画書の作成が完了し、次のステップのためのネットワーク構築ができている状態	経営的視座・起業家精神が高まり、開業して顧客にサービスを提供している状態
大目標の達成時期	2023年1月末から2月上旬頃に開業（3月プレオープン、4月正式オープン）	2023年2月末（未達）	2023年1月プレオープン、2月末オープン

2.2 調査結果：目標・計画の策定とメンタリングの実施

- ▶ 事業①の大目標の達成に向けた、各メンバー機関の小目標と支援内容は下記のとおり計画されました。
- ▶ 本計画に基づき、コア機関との面談・打ち合わせ、メンバー機関との計8回のメンタリングが実施されました。

	事業①			
大目標	顧客に価値を提供できるビジネスを展開するため、事業計画をブラッシュアップし、ニーズを反映させて発信できている状態。			
大目標の達成時期	2023年1月末から2月上旬頃に開業（3月プレオープン、4月正式オープン）			
支援機関	コア機関	メンバー機関①	メンバー機関②	メンバー機関③
	公益財団法人わかやま産業振興財団 太田 佳宏氏、岡 京子 氏	株式会社スリーデイズ 伊藤 理恵 氏	株式会社ゆいネット 稲葉 雅子 氏	ドルフィンワークス株式会社 西田 ミワ 氏
ニーズ・課題	—	【スキル】コミュニケーション力、リーダーシップ	【ノウハウ】マーケティング	【ノウハウ】IT活用
小目標	—	- 道すじを整理して、発信方法を考える - ヒトとの関りについて	道すじを整理して、発信方法を考える	発信方法を考える
小目標の達成時期	—	2023年2月	2023年2月	2023年2月
支援内容	- 全体コーディネート - スケジュール策定 - ゴールイメージ策定 - メンタリング調整・開催	- コミュニティリーダー、地域の巻き込み方 - 理想のリーダーシップ像 - 人を雇う上で考えておくべきこと - 右腕、従業員、人の巻き込み、雇用 - 情報発信のストーリー、メッセージ	- 事業ターゲットについて整理 - 営業スタイルの整理 - 古民家の相談、助言 - 情報発信について - メニュー開発、ターゲットについて - オペレーションについて	情報発信について
支援期間・頻度	10数回	現地視察含め3回	3回	1回

2.2 調査結果：目標・計画の策定とメンタリングの実施

- ▶ 事業②の大目標の達成に向けた、各メンバー機関の小目標と支援内容は下記のとおり計画されました。
- ▶ 本計画に基づき、計5回のメンタリングが実施されました。

	事業②
大目標	課題検証および事業計画書の作成が完了し、次のステップのためのネットワーク構築ができている状態
大目標の達成時期	2023年2月末（未達）

支援機関	コア機関	メンバー機関①	メンバー機関②
	株式会社キャリア・ママ 堤 香苗氏、村田 直美 氏	学び舎mom株式会社 矢上 清乃氏	webマーケコンサルティング 安岡理沙 氏
ニーズ・課題	—	【ノウハウ】課題検証、事業計画	【ノウハウ】マーケティング
小目標	—	・ 仮説検証のためママ・プレママへのアンケート・インタビューを実施	・ 広報戦略を検討
小目標の達成時期	—	2023年2月	2023年2月
支援内容	- 全体コーディネート - 創業支援 - 事業の方向性確認 - 事業目標の設定、今後の課題 - 課題の洗い出し・広報戦略 - アンケート分析・検証	- 課題の洗い出し・広報戦略 - アンケート分析・検証	PR戦略、広報、SNS
支援期間・頻度	4回	2回	1回

2.2 調査結果：目標・計画の策定とメンタリングの実施

- ▶ 事業③の大目標の達成に向けた、各メンバー機関の小目標と支援内容は下記のとおり計画されました。
- ▶ 本計画に基づき、計6回のメンタリングが実施されました。

	事業③		
大目標	経営的視座・起業家精神が高まり、開業して顧客にサービスを提供している状態		
大目標の達成時期	2023年2月末		
支援機関	コア機関	メンバー機関①	メンバー機関②
	株式会社キャリア・ジョセフィーヌ 関 優子 氏	公益財団法人 千葉市産業振興財団 岩井 亮介 氏、高橋 弘明 氏、高橋 誠一郎 氏	エマール経営法律事務所 中澤 未 生子 氏
ニーズ・課題	【マインド】起業家精神	【ノウハウ】事業計画、マーケティング、WEB集客	【ノウハウ】法務
小目標	経営ビジョンの策定と自律性向上	- 公的機関と連携をとりながら事業展開をブラッシュアップ - 事業展開に合わせたターゲットおよびアプローチの細分化 - ビジネスモデルの明確化、ターゲティングに合わせたマーケティング・集客支援	事業計画の法的課題の整理検討
小目標の達成時期	2023年2月	2023年2月	2023年2月
支援内容	- 全体コーディネート - スケジュール策定 - ゴールイメージ策定 - メンタリング調整・開催 - 起業家として一段視座を高めた起業家精神の醸成	- 地域状況を踏まえた事業展開についてのアドバイス - 事業計画の構築・集客マーケティング及び販売促進の提案 - ターゲティングに合わせた情報発信内容	事業計画のリーガルチェックと法的リスク対応に関する助言
支援期間・頻度	6回	6回	5回

2.2 調査結果：定例会の開催

▶ 伴走支援期間中、計2回の定例会を開催しました。第1回定例会、第2回定例会の開催概要は下記のとおりです。

① 第1回定例会（2022年11月29日）

- ▶ 各事業からの事業内容とチーム紹介に加え、本プログラムにおける伴走支援の目標と計画を共有いただきました。
- ▶ セミナーにおいて、mederi株式会社 代表取締役 坂梨亜里咲氏より、「起業4年間のハードシングスと、企業成長のために大切にしていること」について、ご講演をいただきました。

第1回定例会 2022年11月29日（火） 13:00-14:30

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. ご挨拶 | 経済産業省 |
| 2. 本日の進め方、セミナー登壇者のご紹介 | EY |
| 3. 女性起業家によるセミナー、質疑応答 | |
| mederi株式会社 代表取締役 坂梨 亜里咲 氏 | |
| 4. 事業・チーム紹介（事業①） | 事業① |
| 5. 事業・チーム紹介（事業②） | 事業② |
| 6. 事業・チーム紹介（事業③） | 事業③ |
| 7. 今後についてのご案内 | EY |
| 8. ご挨拶 | 経済産業省 |

② 第2回定例会（2023年2月17日）

- ▶ 各事業より、事業の成果及び伴走支援の成果に関してご報告をいただきました。
- ▶ セミナーにおいて、NEWRON株式会社 代表取締役 西井香織氏より、「利益を出し”続ける”ための、ビジネスモデル設計の留意点～単発ビジネスからストックビジネスへ～」について、ご講演をいただきました。

第2回定例会 2023年2月17日（金） 10:30-12:00

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. ご挨拶 | 経済産業省 |
| 2. 本日の進め方、セミナー登壇者のご紹介 | EY |
| 3. 女性起業家によるセミナー、質疑応答 | |
| NEWRON株式会社 代表取締役 西井 香織 氏 | |
| 4. 成果報告（事業①） | 事業① |
| 5. 成果報告（事業②） | 事業② |
| 6. 成果報告（事業③） | 事業③ |
| 7. 今後についてのご案内 | EY |
| 8. ご挨拶 | 経済産業省 |

2.2 調査結果：事前・事後調査の実施

- ▶ 事前調査：女性起業家の皆さま方のご協力を得て、伴走支援の前に事前調査を実施しました。本事前調査でいただいたご意見については、伴走支援の実施において活用させていただきました。
- ▶ 事後調査：女性起業家、支援機関の皆さま方のご協力を得て、伴走支援の後に事後調査を実施しました。支援機関に対する事後調査については計7名より回答をご提出いただきました。回答表に記入をいただいた結果を下表に整理します。回答数が少ないため、人数を示しています。

＜支援機関に対する事後調査の結果＞

大項目	中項目	事後調査
スキル・ノウハウ	ニーズ・課題の把握（課題発見力、ヒアリング力）	向上できた（1名）、やや向上できた（5名）、どちらでもない（1名）
	目標・計画の策定（立案力、判断力）	向上できた（1名）、やや向上できた（4名）、どちらでもない（2名）
	メンタリングの実施（実行力、判断力、課題解決力）	向上できた（2名）、やや向上できた（4名）、どちらでもない（1名）
	女性起業家との接し方（傾聴力、コミュニケーション力）	向上できた（3名）、やや向上できた（3名）
	他機関との連携（発言力、協調性、コミュニケーション力）	向上できた（2名）、やや向上できた（5名）
	他機関との情報共有（発信力、コミュニケーション力）	向上できた（3名）、やや向上できた（3名）、どちらでもない（1名）
ネットワーク	支援機関同士の人的ネットワーク	充足できた（1名）、やや充足できた（5名）、どちらでもない（1名）
	支援機関同士の交流の場	充足できた（1名）、やや充足できた（3名）、どちらでもない（3名）
	女性起業家との人的ネットワーク	充足できた（2名）、やや充足できた（4名）、どちらでもない（1名）

2.2 調査結果：事後調査におけるコア機関からのコメント

▶ 事後調査では、コア機関の皆さま方に、本事業について自由回答にてお伺いしました。回答結果を下記に整理します。

＜コア機関に対する事後調査の結果＞

設問	コア機関からの回答
本事業の伴走支援からの気付き	- 女性起業家を支援される方々の懐の深さを感じることができた。共感したり、同じ女性という立場で悩みなどを共有できることは有難かった。 - メンタリング相談を重ねる中で、幅広いサービス展開を検討していくことができた。それぞれの支援機関の知恵を最大限に生かしながら支援者をサポートすることができた。 - 自分の人脈を駆使して、支援対象のプラスになることは全て行おうと決意し、行動できた。特に、ユーザーさんとなる方々のヒアリングの機会を設けたり、役所に訪問したり、先輩起業家の話を聞く機会を多く設けたりすることで、多角的に支援対象をバックアップし、ご自身の力になれたことが自信になった。
広域連携・支援チームによる伴走支援のよかった点、難しかった点	- 現場を見ることができないという難しさは感じた。しかし他地域の情報であったり、参考事例を紹介いただけたりと、広がりを感じることができた。 - WEB担当の方を支援チームに入れてほしいと支援対象から要望があったが、実現できなかった。支援チーム構築の際に、支援対象の要望を満たせるようにご支援いただきたかった。 - コミュニケーションツールを使いながら各機関・支援者とスムーズに連携を取ることができた点が良かった。 - 起業家の子育てと事業進捗のバランスに関する助言の難しさも感じました。
リモートと対面による伴走支援で支援チームとの関係性に違いはあるか	- コミュニケーションツールの活用でスムーズなやり取りができたため、リモートと対面による差はそれほど感じなかった。 - リモートがリアルかというリアルが良いが、地理的、時間的制約を考えるとオンラインで実施することのメリットは大きかった。 - 情報共有ツールや資料共有ツールをうまく使いこなせれば、オンラインでも対話の内容を視覚的にわかりやすく、考えが整理されると思った。今回は使用していないが、ホワイトボードアプリを使用すると良かった。 - リモートに慣れている方にとっては、関係性に違いはないかと思うが、不慣れだとコミュニケーションの取り方は難しいかもしれない。
支援対象が女性であることにより工夫・配慮したこと	- 女性というより、まずは一人の起業家としてリスペクトをもって。特に地域の課題を解決したいという社会性の強い事業のため、ただただその思いにはリスペクトしかなかった。まずはしっかりと対話をしながらクリアすべき課題を一つずつイメージできるように心がけた。 - ライフイベントとの両立について理解をすることが必要だと感じる。支援対象のマインドや家庭との両立をサポートする支援手法を取った。 - 弊社スタッフや支援機関の関係者にもアンケート・インタビューを行うなど協力できた点が良かった。
支援対象が女性であることにより苦労したこと・疑問・悩み	- 子育てとのバランスをどこまで配慮すればよいのか、ご本人が「大丈夫」と言っている、無理させていないか、と考えることはあった。 - メンタリング以外にも、支援対象とは遠隔だけでなく実際に来てもらって個別にメンタリングも約週一回の頻度で行った。支援対象の気持ちを受け止め、自分のペースで、今の状況でも大丈夫だよ、と言う安心感を与えることに注力した。

2.2 調査結果：事後調査におけるメンバー機関からのコメント

- ▶ 事後調査では、メンバー機関の皆さま方に、本事業について自由回答にてお伺いしました。回答結果を下記に整理します。

＜メンバー機関に対する事後調査の結果＞

設問	メンバー機関からの回答
本事業の伴走支援からの気づき	・ コア機関にうまく関係者をファシリテートしていただいた点、ツールを使いながら連携をうまくコーディネートしてくれた点が良かった。 ・ オンラインツールを活用して適切なタイミングで女性起業家とコミュニケーションを取れたことが良かった。 ・ 異なったスキルを持った支援者が貢献することで幅広い知識や提言が得られ、事業者にとってより多くの選択肢が提示された。
広域連携・支援チームによる伴走支援のよかった点、難しかった点	・ 今回の事業者に適した支援者を全国から選択できた点が良かった。 ・ 支援チームメンバーの構成が非常に良かった。 ・ 起業家が必要としている情報について、広範囲からサポートできた。 ・ オンライン会議ツールの発達により距離が離れていることは全く問題にならなかった。 ・ 女性起業家の方と、メンタリング以外でもオンラインツールなどで質問をいただいたり回答することで、必要に応じてコミュニケーションを取ることができた点が良かった。
リモートと対面による伴走支援で支援チームとの関係性に違いはあるか	・ 支援チーム内でのコミュニケーションはリモートで問題なく、関係性に違いはなかった。 ・ リモートより対面による支援の方が、より活発な議論ができるため、違いはあると思う。ただ、対面の場合は、時間的場所的な制約により、チーム全員が予定を合わせることが困難なので、リモートと対面を組み合わせた支援が望ましい。 ・ WEB会議の場合、会話が被ってしまったり、発言を気付いてもらえないことがあり、リアルと比べてコミュニケーションを取りにくかった。 ・ 自治体の関係部門との打合せなど、リモートでは対応できないものもあった。 ・ リモートだと、起業する方の立地場所や、地域の特性がわかりにくい。 ・ 支援者の周囲を、コア機関側で遠隔で配信してくれたことが良かった。
支援対象が女性であることにより工夫・配慮したこと	・ あえて男女によって対応を分けるようなことはしていないが、事業者の個人的な特性は配慮した。 ・ 女性だからというよりも、初めての起業のため、思うように進捗していないことで、成果が出ているにもかかわらず自信を無くされているように感じたので、自分の創業時の売上の推移や、他の起業家の立ち上げ当初の状況などを事例として説明し、自信を持ってもらえるように配慮した。

2.2 調査結果：事後調査における支援機関からのコメント

- ▶ 事後調査において、今回のプログラムについて、考慮・改善するとよいことについて、支援機関の皆さまに、自由回答にてお伺いしました。回答結果を下記に整理します。
- ▶ 支援機関と女性起業家間の信頼関係のみならず、支援機関同士の信頼関係や役割分担も重要であることが伺えます。

＜支援機関に対する事後調査の結果＞

設問	支援機関からの回答
今回のプログラムについて、考慮・改善するとよいこと	＜伴走支援の体制＞ ・ コア機関が中心になって進めたが、ビジョンを示せるようなアドバイザーやリーダー支援者、あるいは、チーム内リーダーを決められたら、進捗がスムーズで、クリアしていくべきことがもう少し整理できたかもしれない。 ＜伴走支援の進め方、内容＞ ・ 支援開始前に、支援方針について支援機関間で調整を深めておく方が良い。 ・ 有償だったら展開できるサービスにもっと幅を持たせることができたかもしれない。 ・ おおまかに事業計画書は作成できたが、数値的な計画とその根拠が不足していた。この事業におけるメンタリングの回数では事業計画の完成までは支援が難しいので、支援対象者のコア機関と金融機関がタッグを組んで、事業計画書の作成を支援してはどうか。 ・ 支援者自身が女性起業の支援の仕方を学ぶことが重要である。 ＜定例会、セミナー＞ ・ 3つのチームの進捗を定期的に報告するプログラムは、他のチームの進め方を聞け参考になった。 ・ 先輩起業家として登壇される方の事業はエンジェルから投資を受け入れてスケールするタイプだったのに対し、実際にプログラムに参加される方の事業は地域密着型のスモールビジネスが多かったのでギャップを感じた。女性起業家として著名な方よりも、過去にこのプログラムに参加して起業された女性起業家など、身近な先輩起業家にお話してもらう方が参考になる。

2.2 調査結果：事後調査における女性起業家からのコメント

- ▶ 事後調査では、女性起業家の皆さまに、本事業について自由回答にてお伺いしました。回答結果を下記に整理します。
- ▶ コア機関と信頼関係を構築することで、伴走支援を通して起業家が自身を持つことにつながるということが伺えます。

＜女性起業家に対する事後調査の結果＞

設問	女性起業家からの回答
本事業の伴走支援からの気づき	・ 起業家として意識変化とともに、人脈交流の幅を広げる積極性がついた。 ・ 本事業を通じ自身のサービスに自信が持てた。 ・ あくまでも「私」が主体であること、コア機関との相性が重要であり、支援者のアドバイスを「自分軸」からずれることなく進められたのは、コア機関が「私」を信用してくれていたからだと感じた。
広域連携・支援チームによる伴走支援のよかった点、難しかった点	・ リモートでのメンタリングは楽ではあったが、広域連携であっても、せめて一度でも対面の機会は必要だと思う。 ・ 実践に伴う悩みを解決するにあたり、起業経験者による実体験としてのアドバイスもあると良かった。
本事業の成果を今後のご自身の事業運営にどのように活かしたいか	・ 経産省プロジェクトに参加できたことで、自信が付き、PR活動ができています。

2.3 伴走支援手法の課題抽出と 対策の提案

2.3 伴走支援手法の課題抽出と対策の提案

- ▶ 令和3年度事業から得られた知見を踏まえ、本事業における再現性と有効性を検証しました。
- ▶ 本事業における伴走支援の特徴は、①**広域連携支援型**、②**支援チーム型**です。地域の枠を超え、複数の支援機関が支援チームとして女性起業家に伴走支援を提供することで、「**多様な支援や多様な選択肢を提供可能**」であることが検証されました。また、参画した支援機関にとっては、他の支援機関やアドバイザーからの学びや、他機関との連携、定例会での情報共有を通して、「**学びの場**」として機能することも確認できました。

令和3年度事業から得られた知見（再掲）

- ▶ 複数の支援機関からの助言を受けろすることで、取捨選択等の意思決定を繰り返し経験し得るため、経営者として大事な決断力が培われた。
- ▶ 1対1（メンターと起業家）のメンタリング形態だと、メンターの助言が真に活用できるかの判断が難しい場合もあるが、複数機関から多方面より多角的な意見が提供されることで、選択肢が広がり、起業活動にすぐに活かすことができる。

女性起業家に対する効果

支援機関に対する効果

わたしの起業応援団に対する効果

- ▶ 他の支援機関と連携した伴走支援を行うことにより、他の支援機関のメンタリングが双方向の学びとなる。
- ▶ 他の支援機関とのネットワークや新たな人脈を形成につながり、伴走支援期間の終了後も、女性起業家に対する伴走支援や、支援機関同士の関係性が継続。

- ▶ 伴走支援より得られた知見やノウハウ、体験談をネットワークに所属する支援機関に共有することで、各支援機関の知見やスキルの向上に加えて、ネットワーク全体の機能向上に貢献。
- ▶ 本事業に参加した支援機関に、支援チームによる伴走支援の価値を広めていくアンバサダーのような役割を付与することで、ネットワーク内での自律的な支援活動の活発化が期待される。

今年度事業における再現性・有効性の検証

- ▶ 伴走支援を通じた起業家として意識変化とともに、人脈交流の幅を広げる積極性がつき、自身のサービスに自信が持てるようになった。
- ▶ 異なったスキルを持った支援者が貢献することで幅広い知識や提言が得られ、起業家にとってより多くの選択肢が提示された。

⇒複数機関からの支援により、起業家としての自信の獲得と、多角的な意見に基づいた選択が可能になる。

- ▶ 他地域の情報や参考事例が紹介されることにより、幅広いサービス展開を検討でき、支援に広がりが見られる。
- ▶ 多角的に支援対象をバックアップした経験が支援機関の自信につながる。

⇒複数の支援機関による支援が、支援機関同士の双方向の学びに繋がる。

- ▶ 今年度事業において、女性起業家単独での応募を実施することで、女性起業家に対するわたしの起業応援団の周知の機会が創出され、認知度を高める効果があった。他方、女性起業家の支援ニーズに基づく支援チームの構築において、本ネットワークの会員での対応が難しいケースがあった。

⇒各支援機関が提供可能なスキル・ノウハウが把握・検索可能な支援一覧を提供する必要性が明らかになった。

2.3 伴走支援手法の課題抽出と対策の提案

- ▶ 前ページにて確認された再現性・有効性を担保するために必要な、広域連携支援型の自立的・自律的スキームに求められる機能の実現に向けて、今年度の事業成果を踏まえ、伴走支援手法の課題を特定し、課題の対処法を検討しました。これらの課題の対処法の★1・★2について、次項でそれぞれ本事業内で検討・実施しました。

自立的・自律的スキームに求められる機能	今年度の事業を踏まえた課題	課題の対処法
女性起業家と支援機関とのマッチング	▶ 支援機関からの手挙げが少ない ▶ マッチングにおいて、女性起業家のニーズに支援機関のスキルやノウハウをあてがうことはできるが、相性の良し悪しを判断することは難しい ▶ 女性起業家のニーズに本ネットワークの支援機関だけでは対応できない	▶ 本事業に参加した支援機関に、参加するメリットを伝えてもらう（イベント、インタビュー記事等） ▶ 本事業に参加した支援機関の情報を優遇してHPに掲載するなどのインセンティブを提示する ▶ 無償から有償のサービスに移行したモデルケースを作り、発信する ▶ 支援体制は外部機関含め、柔軟に組み換え可能とする
支援機関同士の連携	▶ 多くの支援機関は他の支援機関との連携の経験がないので、お互いを知るまでに時間を要する	▶ 経産省HPにおいて、各支援機関が提供可能なスキル・ノウハウが把握・検索可能な支援一覧を提供する ★2 ▶ 支援機関同士のネットワーキングの場を設ける
支援の全体コーディネート	▶ 支援の全体コーディネートを担える支援機関が少ない ▶ 支援の全体コーディネートを担う支援機関の負担が大きい	▶ 伴走支援の進め方に関するノウハウを記載したマニュアルを策定する ▶ 初めて全体コーディネートを担当する支援機関に対して、アドバイザーやリーダー支援者を配置する
広域・リモートによる支援	▶ 現場を見られないため、女性起業家の地域特性を理解しにくい ▶ リモートより対面による支援の方が、より活発な議論ができる場合がある	▶ オンラインのコミュニケーションツールを活用する ▶ 女性起業家に安心感を与えるため1度は対面とする、支援の場面に応じて対面とするなど、リモートと対面を組み合わせた支援を行う。
伴走支援の向上	▶ 本事業におけるメンタリングの回数では事業計画の完成までは支援が難しい	▶ 支援内容に応じて、伴走支援期間を柔軟に設定する ▶ 支援対象者のコア機関と金融機関がタッグを組んで、事業計画書の作成を支援する
ノウハウ等蓄積	▶ 支援チームによる自立的・自律的な伴走支援においては、支援ノウハウや課題が本ネットワークに蓄積されない	▶ 伴走支援を行った支援機関を対象に、取組や女性起業家の課題、対応についての意見聴取を実施し、ネットワーク内に共有する。 ★1

2.4 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立・共有に向けた対処方針の実施

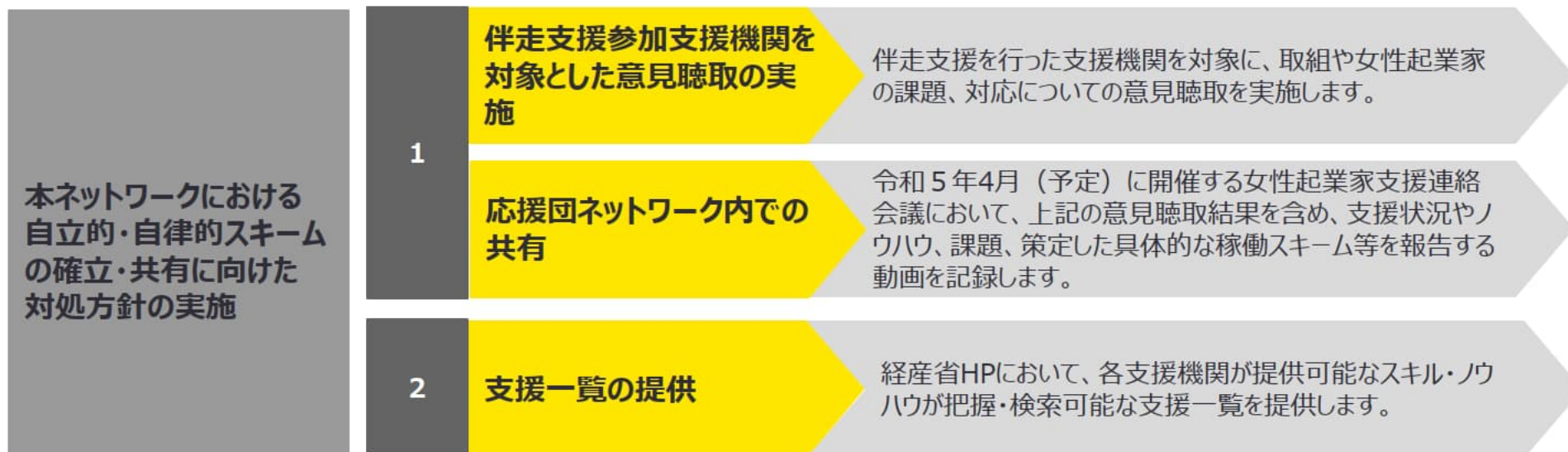
2.4 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立・共有に向けた対処方針の実施

趣旨

- ▶ 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立に向けた検討のため、前項で伴走支援を通じて得られた課題とそれに対する対処方針について、今回は実現可能性の観点から以下の2つを実施します

業務実施

- ▶ 以下を実施します。



2.4.1 意見聴取の実施および応 援団ネットワーク内での共有

2.4.1 伴走支援参加支援機関を対象とした意見聴取の実施

意見聴取の実施方法

- ▶ 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立に向けた検討にあたって得られた、伴走支援を通じて得られた課題に対する対処方針「伴走支援を行った支援機関への意見聴取」について、事業①～③の支援チーム関係者を対象に下記の設問を設定し、7名より回答を得ました。

<意見聴取に用いた設問と回答方法>

No	設問	回答方法
1	わたしの起業応援団関連のプログラムに、応援団メンバーが参加しやすくなるために手法についてアイデアがあればお聞かせください。（例：支援を有料で実施、支援した機関への表彰制度 等）	自由記述
2	今後はわたしの起業応援団のメンバー同士で必要な支援を依頼しあい、連携して支援を行えるようになることを想定していますが、そのような形式での実施にあたり工夫したほうが良いと思われることがあればお聞かせください。（例：女性起業家を支援するA社が、マインドの面で知見が豊富なB社に一部支援を依頼）	自由記述

2.4.1 伴走支援参加支援機関を対象とした意見聴取の実施

意見聴取の実施結果①

- ▶ 意見聴取の結果、本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立に向けた、**わたしの起業応援団関連のプログラムに、応援団メンバーが参加しやすくなるための手法**について、下記の3点が挙げられました。
 - ▶ ① 支援機関同士の交流のため、当該プログラムを**支援機関同士の人的ネットワークがより広がる場**とする
 - ▶ ② 有償での支援の提供も可能とする
 - ▶ ③ 支援機関によっては**広域の参加が難しい場合がある**ので、近隣に限定するなど要件を多様化する

意見聴取の実施結果②

- ▶ 意見聴取の結果、本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立に向けた、**わたしの起業応援団のメンバー同士で必要な支援を依頼しあい、連携して支援を行うための工夫**について、下記の2点が挙げられます。
 - ▶ ① **総括的な体制の整備や情報共有の向上**（機密保持に関する協定を結び、情報共有を密に行うなど）により、より効果的な支援体制を構築する
 - ▶ ② **リアルな交流イベント（各県での開催を含む）の実施や、各支援機関のインタビュー記事の掲載**をとおして、お互いの情報を把握することで、支援機関同士の連携を図る

2.4.1 応援団ネットワーク内での共有

- ▶ 報告書資料を用いて、2.4.1で実施した意見聴取結果を含め、支援状況やノウハウ、課題、策定した具体的な稼働スキーム等を報告する動画を記録しました。
- ▶ 本動画は、令和5年4月以降（予定）に開催する女性起業家支援連絡会議において利用される予定です。

2.4.2 支援一覧の提供

2.4.2 支援一覧の提供

- ▶ 本ネットワークにおける自立的・自律的スキームの確立に向けた検討にあたって得られた、伴走支援を通じて得られた課題に対する対処方針「支援一覧の提供」について、各支援機関が提供可能なスキル・ノウハウの把握が課題として挙げたため、経産省との協議により、**各支援機関が提供している支援の情報を集約し、検索可能なかたちで利用者に提供する方策**を検討し、一覧化すべき情報について整理しました。利用者は女性起業家と支援機関の2者を想定しています。
 - ▶ 女性起業家：全国の支援機関の支援施策や取組を検索し、支援機関と繋がることで、起業を後押しする効果が期待される。
 - ▶ 支援機関：支援機関同士の支援体制の構築と連携を促進する効果が期待される。

<支援機関一覧（検索用）>

	項目		回答形式
①基本情報	都道府県		選択式
	組織名		自由記述
	組織属性		選択式（地方自治体、産業・創業支援機関、商工会・商工会議所、男女共同参画センター、金融機関、NPO団体、大学、弁護士・弁理士・公認会計士、その他）
	組織概要		自由記述
	ホームページ		自由記述
	一言メッセージ		自由記述
②支援対象	支援可能な範囲		選択式（全国、近隣圏内、県内、市町村、その他）
	備考（具体的な支援可能な範囲）		自由記述
	分野（得意な業種等）		自由記述
	起業フェーズ	起業を目指す方	選択式（「◎：実績あり」：5名以上の支援実績がある、「○：実績あり」：1～4名の支援実績がある、「△：実績なし」：支援可能だが支援実績がない、「－：支援対象外」）
		起業後（スモールビジネスを希望する方）	
起業後（スケールアップを希望する方）			
③支援内容	マインド		選択式（「◎：実績あり」：5名以上の支援実績がある、「○：実績あり」：1～4名の支援実績がある、「△：実績なし」：支援可能だが支援実績がない、「－：支援対象外」）
	スキル		

2.4.2 支援一覧の提供

＜支援機関一覧（検索用）＞（つづき）

	項目		回答形式
③支援内容	ノウハウ	ビジネスモデル	選択式（「◎：実績あり」：5名以上の支援実績がある、「○：実績あり」：1～4名の支援実績がある、「△：実績なし」：支援可能だが支援実績がない、「－：支援対象外」）
		事業計画	
		資金調達	
		法人立上	
		マーケティング	
		販促・広報	
		財務会計	
		契約・法務	
		知的財産	
		海外展開	
		認証取得・規制	
	ネットワーク		
	資金	補助金	
融資			
インキュベーション施設の有無			
その他			
支援実績一覧		自由記述	
④受賞歴	受賞歴		選択式（「○：受賞歴あり」：1回以上の受賞歴「－：受賞歴なし」：受賞歴がない）
	支援実績一覧		自由記述
⑤支援料金	料金		選択式（無料、有料、要相談、その他）
	備考		自由記述

第3章 わたしの起業応援団ネットワークによる女性起業家支援の エコシステムのあり方

3.1 調査設計

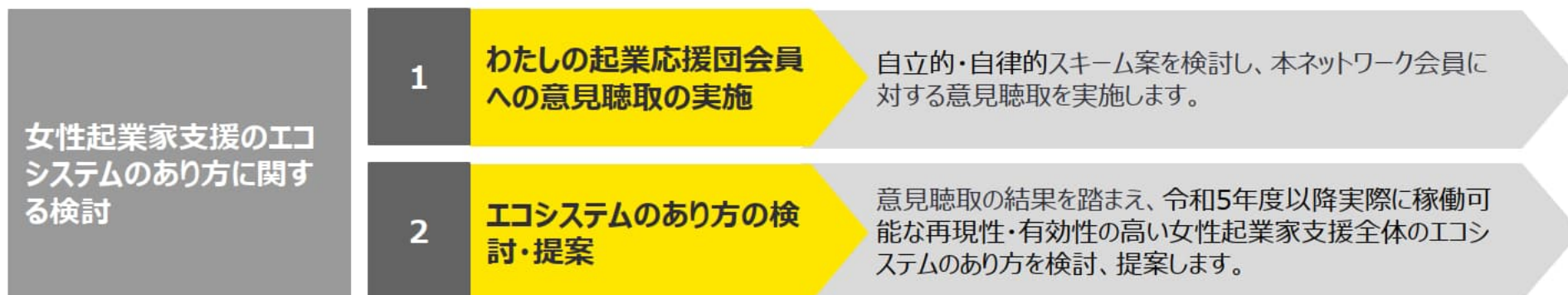
3.1 調査設計

趣旨

- ▶ 本ネットワークの最終ゴール「女性起業家の支援事例や支援手法・関係省庁の施策情報の共有、女性起業家支援者の連携強化等により、女性起業家の事業環境の向上や支援体制、支援内容の充実を図り、起業・創業の活性化や女性起業家の成長・発展を促進すること」の達成のため、自立的・自律的スキームを活用した、令和5年度以降実際に稼働可能な再現性・有効性の高い女性起業家支援全体のエコシステムのあり方を検討、提案します。

業務実施の手順

- ▶ 本タスクは以下の流れにより実施します。



3.2 アンケート調査結果

3.2 アンケート調査結果：意見聴取の実施方法

意見聴取の実施方法

- ▶ 本ネットワークの会員を対象に、現状のわたしの起業応援団の枠組みの更なる活性化を目指し、本ネットワークに関するご意見をお寄せいただくためのアンケート調査を実施しました。
- ▶ 合計285機関にアンケート調査票を発出し、68機関より回答を得ました。回答率は24%です。
- ▶ アンケート調査期間：2023年2月13日～28日

3.2 アンケート調査結果：アンケート調査票

意見聴取の実施方法

▶ アンケート調査に用いたアンケート調査票は下記のとおりです。

No	設問	回答形式	選択肢
0	組織属性	選択式	女性起業家 地方自治体 産業・創業支援機関 商工会・商工会議所 男女共同参画センター 金融機関 NPO団体 大学 弁護士・弁理士・公認会計士 その他
1	わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズについてお聞かせください。	選択式（上位5つまで）	1.1 女性起業家支援のノウハウ提供 1.2 支援機関同士の情報交換や交流の場（交流会・イベント） 1.3 支援機関同士の情報交換や交流の場（SNS） 1.4 女性起業家支援に関する政策・施策の情報提供 1.5 女性起業家支援に関する講演やセミナーの開催 1.6 女性起業家のロールモデルに関する情報提供 1.7 自社の情報発信の場 1.8 他の支援機関との協業・マッチング 1.9 女性起業家とのつながりの場 1.10 その他
	「1.10」その他を選択した場合、ご記載ください。	自由記述	-
	「1.1～1.10」を選択した理由をご記載ください。	自由記述	-

3.2 アンケート調査結果：アンケート調査票

▶ アンケート調査に用いたアンケート調査票は下記のとおりです。（つづき）

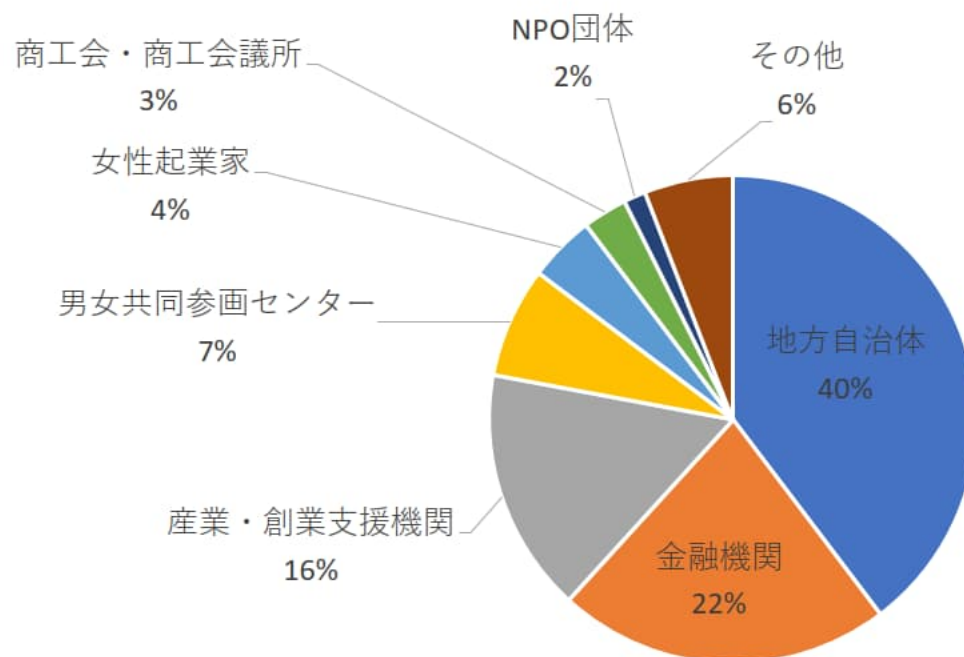
No	設問	回答形式	選択肢
2	わたしの起業応援団のHPに求める発信内容についてお聞かせください。	選択式 （上位5つまで）	2.1 支援機関に関する検索可能な情報・リスト 2.2 セミナー・イベント情報 2.3 女性起業家のインタビュー記事 2.4 支援機関のインタビュー記事 2.5 女性起業家支援に関するノウハウ 2.6 国・経済産業省による起業家支援制度・プログラムの情報 2.7 その他
	「2.7 その他」を選択した場合、ご記載ください。	自由記述	-
	「2.1～2.7」を選択した理由をご記載ください。	自由記述	-
3	経済産業省による「わたしの起業応援団」のメンバーを対象とした女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマについてご希望をお聞かせください。	選択式 （上位5つまで）	3.1 一般的な伴走支援のノウハウ（事業計画、ビジネスモデル、マーケティング、広報等） 3.2 先進的なビジネスモデル・マーケティングのノウハウ（プラットフォーム型ビジネスモデル、デジタルマーケティング等） 3.3 近年の潮流を踏まえたビジネスの構築に求められる知識（AI、NFT、WEB3.0、メタバス、ロボティクス、宇宙、医薬・バイオ等） 3.4 スケールアップを目指した伴走支援のノウハウ（産学連携、資金調達、知的財産、アライアンス・連携等） 3.5 女性起業家特有の課題に関する伴走支援のノウハウ（キャリア形成、マインドの醸成等） 3.6 女性起業家からの経験談 3.7 伴走支援の進め方に関する事例（複数機関による支援、地域を越えた支援、オンラインを活用した支援等） 3.8 その他
	「3.8 その他」を選択した場合、ご記載ください。	自由記述	-
	「3.1～3.8」を選択した理由を以下にご記載ください。	自由記述	-
4	わたしの起業応援団や経済産業省の女性起業家支援施策に対して、ご意見やご要望等がございましたらご記載ください。	自由記述	-

3.2 アンケート調査結果：回答者の属性

回答者の属性

- ▶ アンケート回答者の属性は、地方自治体が約40%で最も多く、金融機関が22%、産業・創業支援機関が16%で次いでいます。
- ▶ なお、NPO団体は回答数が1のため、属性別の分析ではその他に含めています。

回答者の属性（n=68）

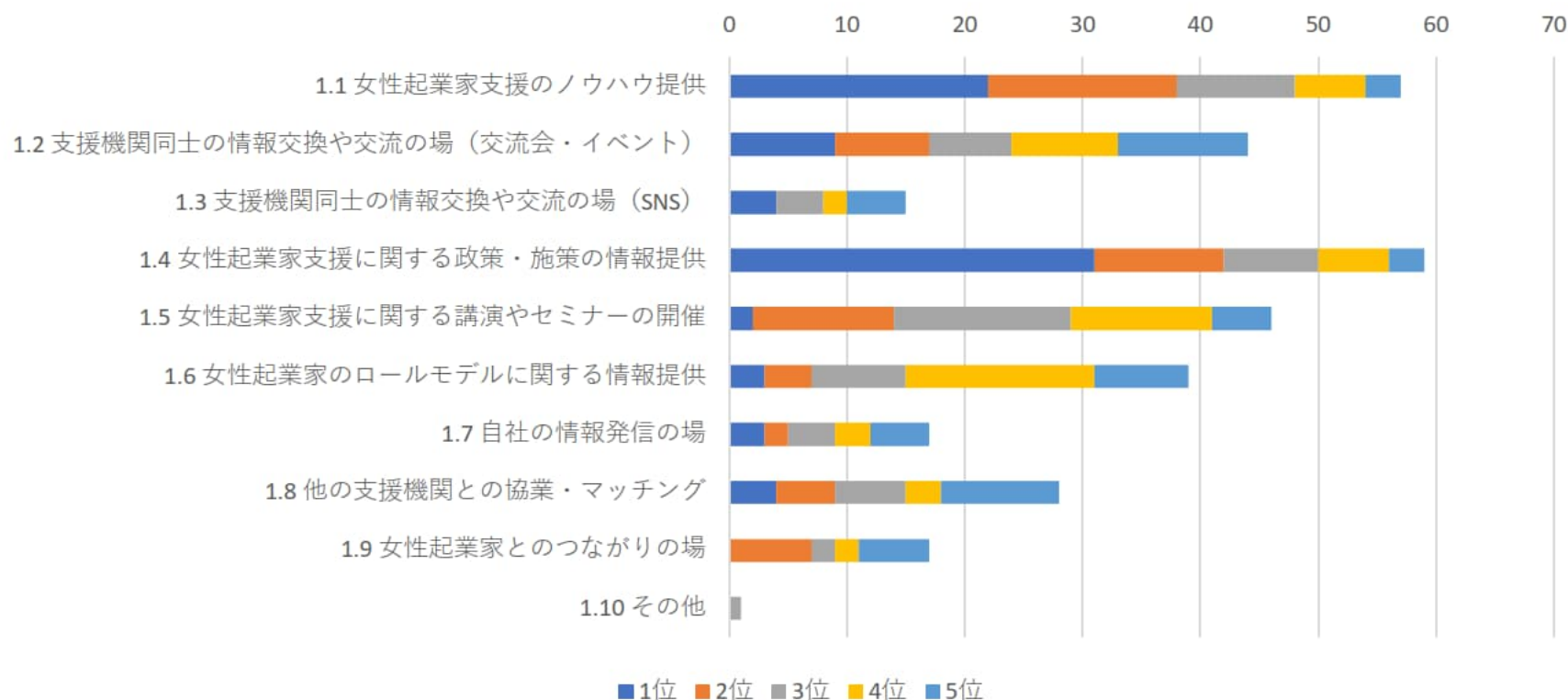


3.2 アンケート調査結果：1. わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ

1. わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ

- ▶ わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズについて、「1.4 女性起業家支援に関する政策・施策の情報提供」、「1.1 女性起業家支援のノウハウ提供」、「1.5 女性起業家支援に関する講演やセミナーの開催」の順で回答数が多いです。
- ▶ 1位に選ばれた数では、「1.2 支援機関同士の情報交換や交流の場（交流会・イベント）」が上位となります。

わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ（n=68）※複数回答

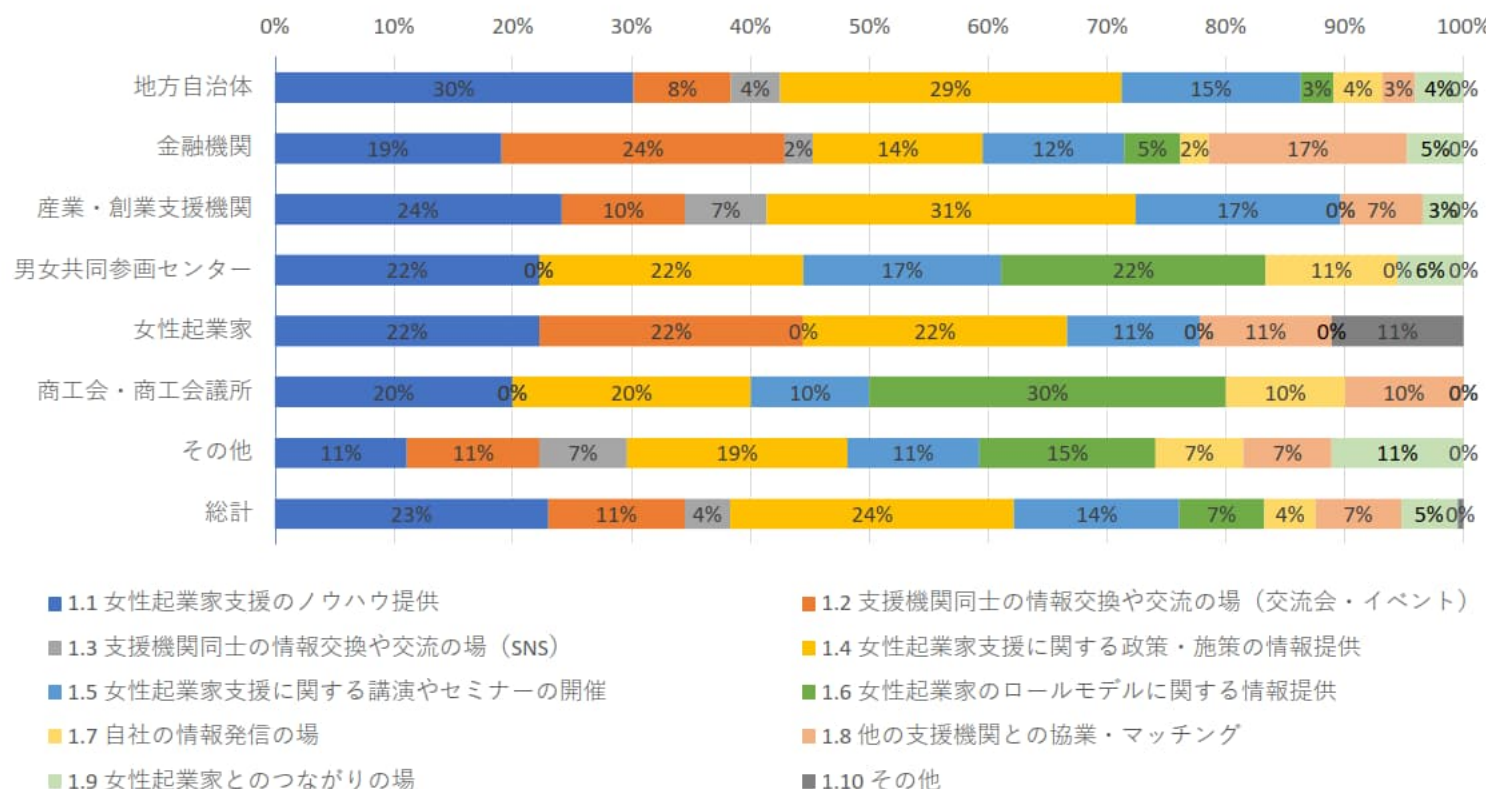


3.2 アンケート調査結果：1. わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ

1. わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ（属性別）

- ▶ わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズについて、属性別でクロス分析した結果は下記のとおりです。（上位3位まで）
- ▶ 次ページより、クロス分析の結果、上位を占めたニーズについて詳細を記載します。

わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能のニーズ・属性別（n=68）※複数回答・上位3位まで



3.2 アンケート調査結果：1. わたしの起業応援団が支援機関に提供する機能の二ース

1.1 女性起業家支援のノウハウ提供の選択理由

- ▶ 応援団会員は、専門知識やノウハウ不足を課題としており、また、支援施策や取組の参考情報として活用しているため、有用だと考えられます。

1.4 女性起業家支援に関する政策・施策の情報提供の選択理由

- ▶ 応援団会員は、一元化された情報提供にネットワークの強みや独自性を感じられており、わたしの起業応援団が女性起業家支援に関する政策・施策を情報提供することで、応援団会員における支援施策・取組の参考、支援対象への情報提供等に役立つと考えられます。

1.5 女性起業家支援に関する講演やセミナーの開催の選択理由

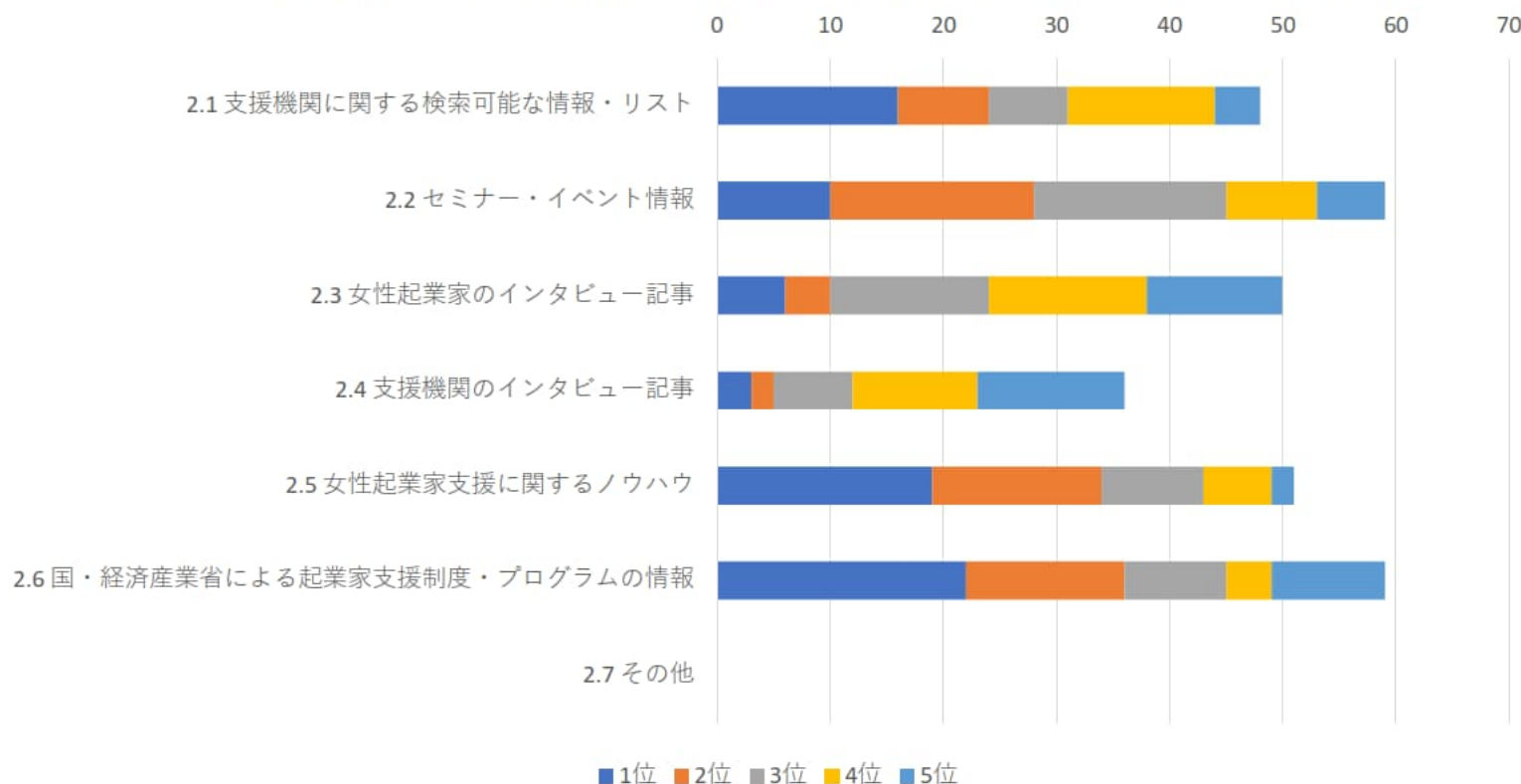
- ▶ 応援団会員は、支援の参考情報とするとともに、支援対象への情報提供や、セミナーを企画するときの参考情報として活用できると感じており、有用であると考えられます。

3.2 アンケート調査結果：2. わたしの起業応援団のHPに求める発信内容

2. わたしの起業応援団のHPに求める発信内容

- ▶ わたしの起業応援団のHPに求める発信内容は、「2.6 国・経済産業省による起業家支援制度・プログラムの情報」と「2.2 セミナー・イベント情報」が同数、「2.5 女性起業家支援に関するノウハウ」の順で回答数が多いです。
- ▶ 1位に選ばれた数では、「2.1 支援機関に関する検索可能な情報・リスト」が上位にきます。

わたしの起業応援団のHPに求める発信内容（n=68）※複数回答

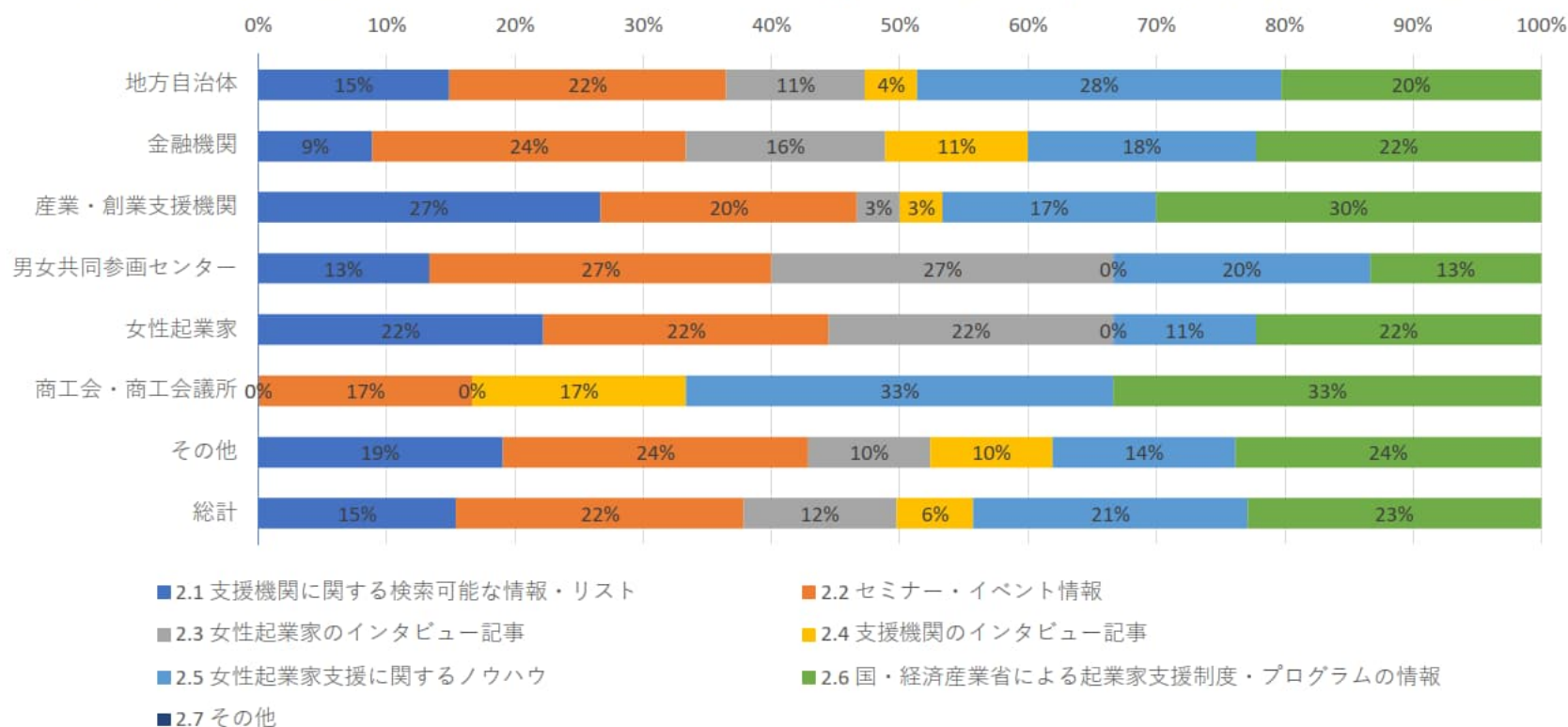


3.2 アンケート調査結果： 2. わたしの起業応援団のHPに求める発信内容

2. わたしの起業応援団のHPに求める発信内容（属性別）

- ▶ わたしの起業応援団のHPに求める発信内容について、属性別でクロス分析した結果は下記のとおりです。（上位3位まで）
- ▶ 次ページより、クロス分析の結果、上位を占めたニーズについて詳細を記載します

わたしの起業応援団のHPに求める発信内容・属性別（n=68）※複数回答・上位3位まで



3.2 アンケート調査結果： 2. わたしの起業応援団のHPに求める発信内容

2.2 セミナー・イベント情報の選択理由

- ▶ 女性起業家を含め、多様な関係者の参考になると考えられます。

2.5 女性起業家支援に関するノウハウの選択理由

- ▶ 支援のあり方・心構え、女性起業家の実情・ニーズ、最新の知見・先進事例、フェーズ別の支援ノウハウ（成功したこと、苦労したこと）等の情報を求めており、わたしの起業応援団がこれらをまとめた情報として提供することで、応援団会員における支援施策や取組の参考情報として役立つと考えられます。

2.6 国・経済産業省による起業家支援制度・プログラムの情報の選択理由

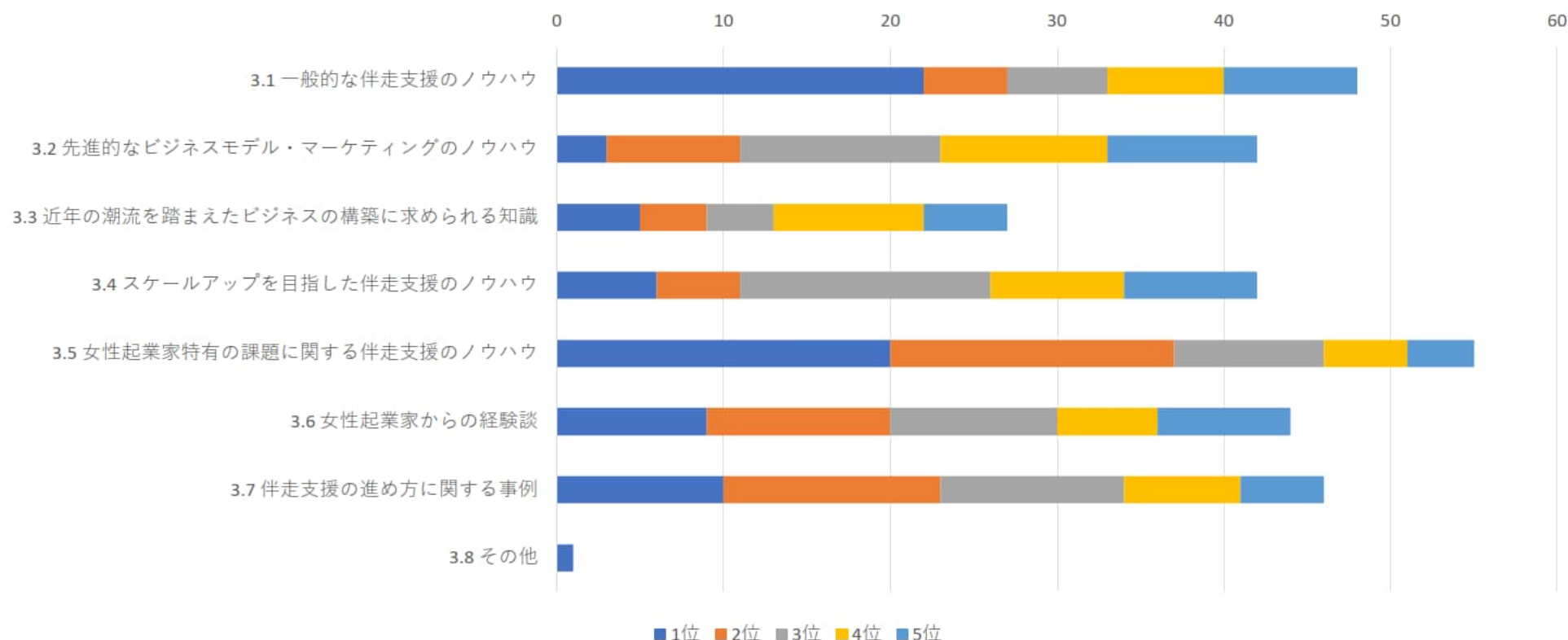
- ▶ 応援団会員は、支援施策や取組の参考情報として役立ち、また、支援機関による支援対象への情報提供としても活用できると感じていることから、わたしの起業応援団が発信することは有用であると考えられます。また、情報の提供方法について、応援団会員からは、リスト化や分かりやすい解説も求められています。

3.2 アンケート調査結果：3. 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ

3. 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ

- ▶ 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマについては、「3.5 女性起業家特有の課題に関する伴走支援のノウハウ」が最も多く、「3.1 一般的な伴走支援のノウハウ」、「3.7 伴走支援の進め方に関する事例」に関する事例の順で回答数が多いです。

女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ（n=68）※複数回答

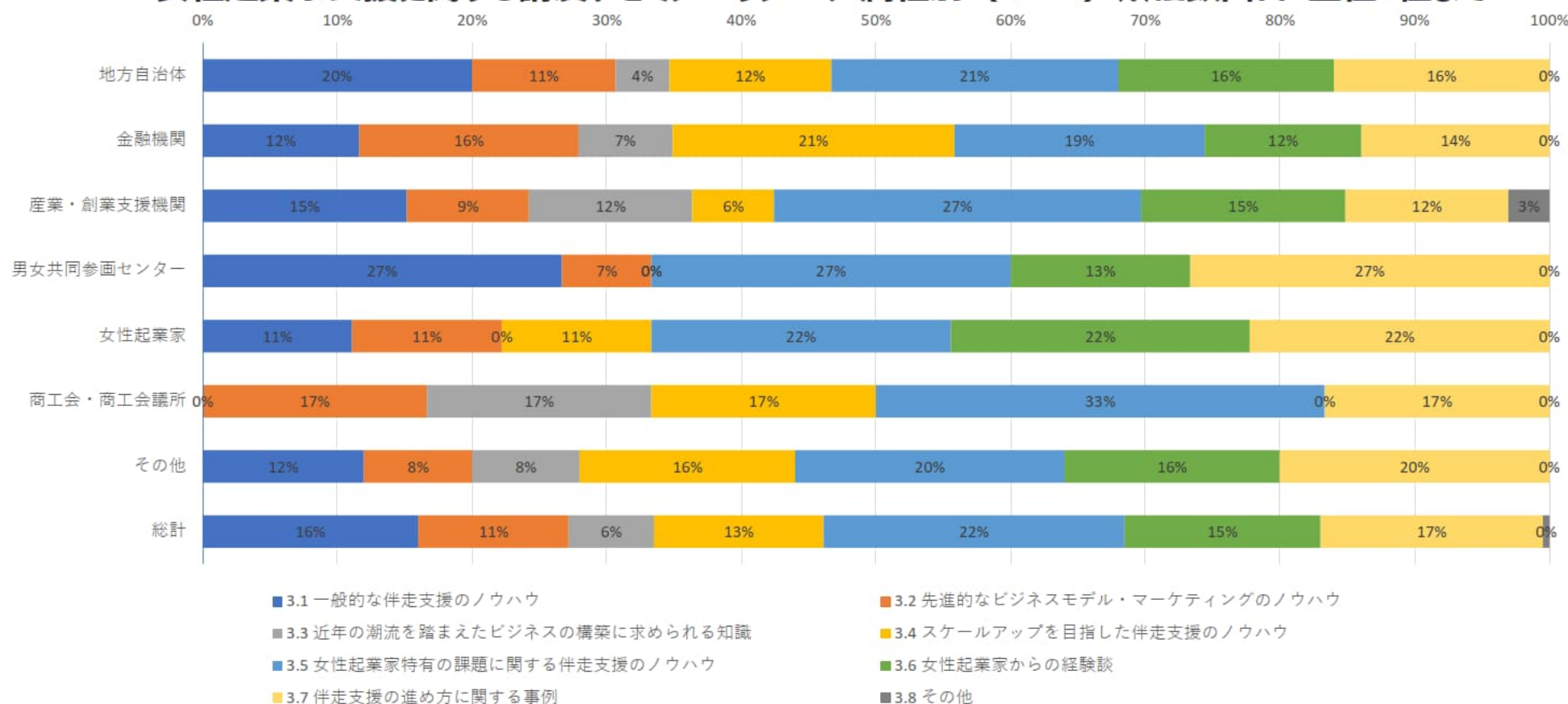


3.2 アンケート調査結果：3. 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ

3. 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ（属性別）

- ▶ 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマについて、属性別でクロス分析した結果は下記のとおりです。（上位3位まで）
- ▶ 次ページより、クロス分析の結果、上位を占めたニーズについて詳細を記載します。

女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ・属性別（n=68）※複数回答・上位3位まで



（出典）アンケート調査結果より弊社法人作成

3.2 アンケート調査結果：3. 女性起業家支援に関する講演やセミナーのテーマ

3.1 一般的な伴走支援のノウハウの選択理由

- ▶ 担当者の異動がある地方自治体において基礎力の向上に資すると考えられているほか、女性起業家からの支援ニーズが高い内容であるとの指摘もあり、講演やセミナーのテーマとして設定することで、応援団会員の支援力の向上と支援の幅を広げることにつながると考えられます。

3.5 女性起業家特有の課題に関する伴走支援のノウハウの選択理由

- ▶ 女性起業家特有の課題に関する伴走支援のノウハウについて、応援団会員は、女性起業家ならではの課題や悩みに関する正しい理解を得て支援力を向上できていると感じられているため、講演やセミナーのテーマとして設定することは有用であると考えられます。

3.7 伴走支援の進め方に関する事例の選択理由

- ▶ 伴走支援の進め方に関する事例について、応援団会員は、支援における参考情報に加え、地方自治体では広域連携の実施も検討されており、講演やセミナーのテーマとして先進事例を提供することは有用であると考えられます。

3.2 アンケート調査結果： 4. わたしの起業応援団や経済産業省の女性起業家支援施策

4. わたしの起業応援団や経済産業省の女性起業家支援施策に対する、ご意見やご要望等

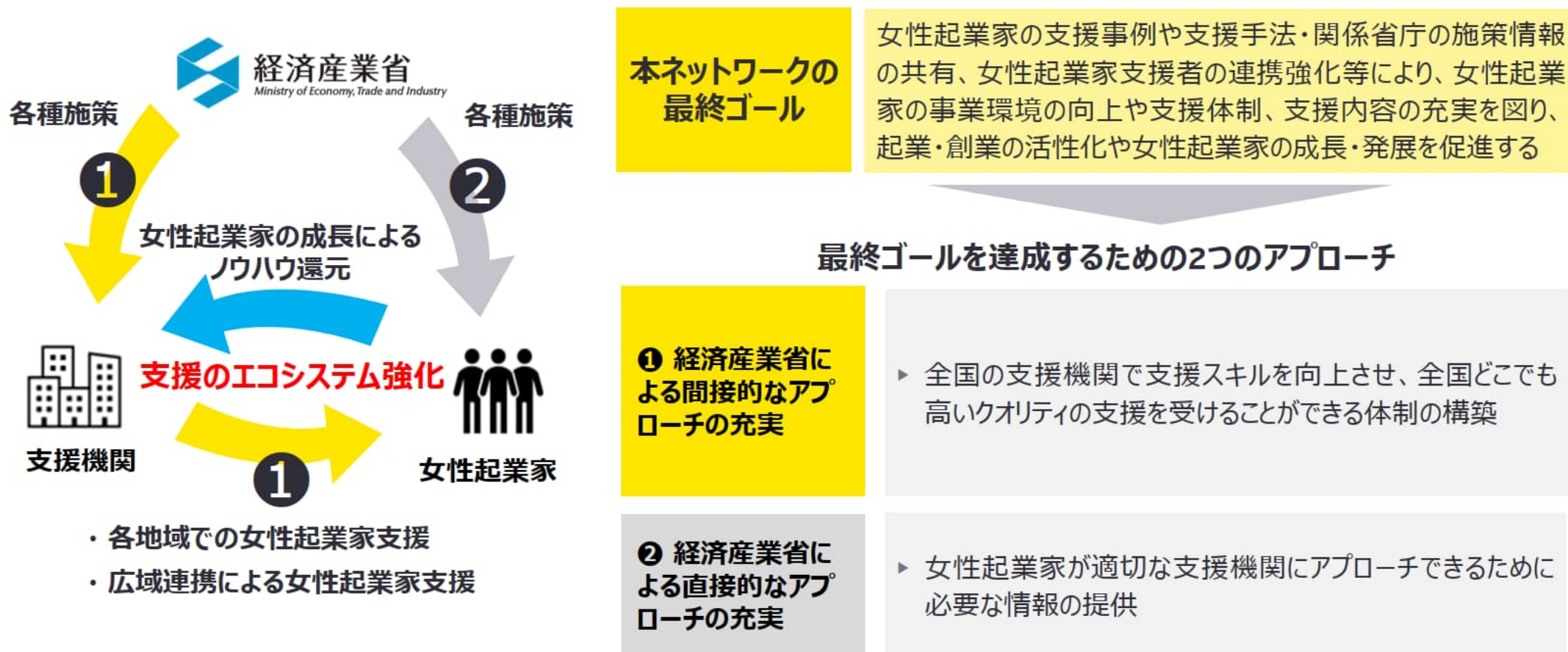
- ▶ アンケート結果より、わたしの起業応援団が提供する支援情報の充実（先進事例、成功事例、地域情報）、本ネットワークの認知度の向上（宣伝、本ネットワークの名称）、及び、施策の方針（支援対象の考え方）に関するご意見が寄せられました。

ニーズ	属性	コメント（抜粋）
支援情報の充実	地方自治体	・ 現在は女性起業家支援に特化した事業を実施していないが、既存の創業支援関連事業の中での取組や、今後の新規事業を立案する際に、 先進事例 として参考にしたいと考えている。
	女性起業家	・ SNSでの起業を考える方は、SNSで起業情報を得ることも多く、オンラインでの起業コンサルタントや集客コンサルタントの方に多額の料金を払ってしまったりする方が多くいる。そこも同じように高額なサービスを売ることが指導されている。 世の中に必要とされるビジネスで成功されている事例 をもっと知ってもらえる機会が増えれば良いと思う。
	その他	・ 地域特性の近い近隣県の情報 を更に手厚くいただくと、ノウハウ習得や支援機関の連携など、活発な支援活動に繋がっていく。
ネットワークの認知度の向上	女性起業家	・ 地方では「わたしの起業応援団」のようなサイトがあることすら知らない方も多い。各地の経済団体や、自治体をもっと活用して、有効に使っていただけるような 宣伝が必要 だと感じる。
	金融機関	・ 「わたしの起業応援団」という名称については、女性起業家を支援していることが一目でわかる名称の方がよいかもしれない。（「わたし」という名称は、ビジネスにおいて男性も使用するため）
施策の方針	産業・創業支援機関	・ 最近ではLGBTQIAなどの声も聞かれ、女性に特化した活動に異論を唱える方も多くなっている。どのような社会になったら女性活躍推進施策を方向転換するのが計画などを知りたい。

3.3 エコシステムのあり方の検討・ 提案

3.3 エコシステムのあり方の検討・提案

- ▶ アンケート結果を踏まえ、本ネットワークの最終ゴールを達成するためのわたしの起業応援団のエコシステム強化の方向性として、①経済産業省による女性起業家への間接的なアプローチの充実、②経済産業省による女性起業家への直接的なアプローチの充実 の2つの観点から、令和5年度以降実際に稼働可能な再現性・有効性の高い女性起業家支援全体のエコシステムのあり方を実現する施策案を検討します。
- ▶ 各種施策の案については、次頁において提案します。



3.3 エコシステムのあり方の検討・提案

- ▶ わたしの起業応援団のエコシステム強化に向け、①経済産業省による間接的なアプローチの充実、②経済産業省による直接的なアプローチの充実 の2つの観点から、下記の各種施策を提案します。
- ▶ 令和5年度以降に**支援機関のニーズを踏まえた各種施策**が実施されることで、**各支援機関の支援スキルの向上と支援機関同士の連携による支援の幅の広がり**が見込まれ、より一層の**起業・創業の活性化や女性起業家の成長・発展の促進**が期待されます。

① 経済産業省による間接的なアプローチの充実	女性起業家支援に関する政策・施策の情報提供	▶ 主に、地方自治体や金融機関における 女性起業家支援の施策や取組の立案や改善における参考情報や支援者への情報提供 として役立つ
	女性起業家支援のノウハウ提供	▶ 支援事例の公開情報が少ないため、 HPや講演・セミナーにおける支援ノウハウの提供 により 支援機関の支援力の向上 に貢献する
	女性起業家支援に関する講演やセミナーの開催	▶ 講演やセミナーの希望テーマとして上位に挙げた、「女性起業家特有の課題に関する伴走支援のノウハウ」、「一般的な伴走支援のノウハウ」、「伴走支援の進め方に関する事例」に関する講演やセミナーを実施することで、 支援機関の支援の幅の拡大 に貢献する
	支援機関同士の交流の場の設定と広域連携の促進	▶ 講演やセミナーの開催時において、 交流や連携を促進する場を設定 することも一案 ▶ 本ネットワークの支援機関同士が自発的に連携し、広域連携による支援を行うユースケースを構築し、支援の質の向上につなげる。連携先を探す際に、 支援機関に関する検索可能なリストの提供 も役立つ。
② 経済産業省による直接的なアプローチの充実	支援機関に関する検索可能なリストの提供	▶ 全国の支援機関の支援施策を一元化して情報提供 できる本ネットワークの強みを活かす
	インタビュー記事の掲載	▶ 身近な成功事例 が女性起業家の起業のハードルを下げる ▶ 令和3・4年度の 女性起業家支援プログラム で採択された 女性起業家のインタビュー記事 を掲載することも一案

參考資料

参考資料1： 申込フォーム（起業起業者向け ①支援機関とペア応募）

▶ 女性起業家の選定にあたり、①支援機関とペアでの募集時に用いた申込フォームは以下のとおりです。

経済産業省
令和4年度「わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム」
申込フォーム

以下の項目に記入いただき、ご応募ください。

A0 起業希望者の応募資格

応募形式	☐ 個人		
	☐ チーム	メンバー数	名
応募資格	☐ 募集要項に記載する「応募要件」を満たす。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。		
	☐ 募集要項に記載する「留意事項」を了承する。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。		

A1 応募者基本情報(起業希望者、チームで応募する場合、その代表者)

ふりがな		生年月日	西暦	年	月	日	(満)	歳
氏名		現住所	〒 -					
ふりがな								
ご所属								
ご職業	☐ 学生 ☐ 会社員 ☐ 自営業 ☐ その他 ()							
ご連絡先	TEL							
	E-mail							
本人以外 の緊急連 絡先	氏名							
	TEL							
	E-mail							

A2 事業名

事業形式、内容、想定している提供価値を要約してください。
(例：所在地周辺の授乳室の位置及び設備状況を検索可能なアプリ開発による子育ての利便性への貢献、地域の空き家利活用によるワーケーションの促進とコミュニティ活性化)

A3 事業内容

事業のミッション、内容、社会や市場・顧客に対する提供価値について記載してください。また、課題解決やニーズ対応の手段としての独自性、新たなサービス・製品としての革新性、社会に対するインパクト、将来的な波及効果などが見込まれる場合は、ご記入ください。起業予定時期・創業予定地・自己資金等想定しているものがあれば、可能な範囲で記載してください。

A4 課題解決やニーズ対応への思い

起業による課題解決やニーズ対応の思いについて記載してください。また、事業の対象として設定する課題やニーズについて、社会性や独自の観点がある場合はご記入ください。

A5 SDGs対象ゴール

事業内容に対応するSDGsのゴールがある場合、すべて選択してください。 ※SDGsの詳細については外務省ホームページ (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>) をご参照ください。

☐ 1: 貧困	☐ 2: 飢餓	☐ 3: 保健	☐ 4: 教育	☐ 5: ジェンダー	☐ 6: 水・衛生
☐ 7: エネルギー	☐ 8: 経済成長と雇用	☐ 9: インフラ、産業化、イノベーション			
☐ 10: 不平等	☐ 11: 持続可能な都市	☐ 12: 持続可能な消費と生産			
☐ 13: 気候変動	☐ 14: 海洋資源	☐ 15: 陸上資源	☐ 16: 平和	☐ 17: 実施手段	

A6 支援を期待する項目

期待する支援項目を選択した上、求める具体的な支援内容とその理由を記載してください。また、本事業期間中のゴールイメージ(事業計画書作成、資金調達、プレマーケティング等)を記載ください。
(本内容に沿って、支援機関を退出します。なお、本ネットワークでの検討により、ご提供する支援が変更となる可能性や、一部希望に沿えない可能性もある旨ご了承ください。)

☐ マインド_経営的視座	☐ マインド_起業家精神
☐ マインド_リーダーシップ	☐ スキル_マネジメント力
☐ スキル_プレゼンテーション力	☐ スキル_交渉力
☐ ノウハウ_組織運営	☐ ノウハウ_事業計画
☐ ノウハウ_マーケティング	☐ ノウハウ_資金調達
☐ ノウハウ_財務会計	☐ ノウハウ_契約・法務
☐ ノウハウ_IT活用	☐ ネットワーク拡大_人的ネットワーク
☐ ネットワーク拡大_交流の場	☐ ネットワーク_ロールモデル

参考資料1： 申込フォーム（起業起業者向け ①支援機関とペア応募）

▶ 女性起業家の選定にあたり、①支援機関とペアでの募集時に用いた申込フォームは以下のとおりです。（つづき）

A7 希望する支援機関

経済産業省「わたしの起業応援団」メンバー機関に、希望する支援機関がありましたら、併せてご記入ください。
※経済産業省「わたしの起業応援団」応募者一覧：https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/joseikigyoka/supportsearch.html
（本内容に沿って、支援機関を選出します。なお、本ネットワークでの検討により、ご提供する支援が変更となる可能性や、一部希望に沿えない可能性もある旨ご了承ください。）

A8 これまでの活動内容

起業に向けてこれまでに行った活動等を記載してください。他の類似プログラムへの加入実績や、ビジネスプランコンテストでの出場・入賞実績があれば、ご記入下さい。

A9 起業フェーズ

2022年7月1日時点のご自身の起業フェーズを1つ選択してください。起業フェーズの詳細は募集要項のP2をご参考ください。

☐ フェーズ0（起業に関する情報収集段階）
☐ フェーズ1（起業してみたい想いがあり、何からどう始めたらよいか知りたい）
☐ フェーズ2前半（起業に向けてまずはいろいろ学びたい、必要な支援・環境を整えたい）
☐ フェーズ2後半（起業に向けて事業プランを作ってみたい、起業に向けて準備をしたい）
☐ フェーズ3前半（起業から1年未満）
☐ フェーズ3後半（起業後3年から5年）

A10 起業における心配点、気になっていること、大事にしたいこと

起業における心配点、気になっていること、大事にしたいことを記載してください。
また、生活面での不安や事業の成長スピードと生活スタイルのバランス等、気になっていることを記載してください。

A11 自己PR・その他

自己PR、女性起業家としての成長意欲、その他に記載したい事項がありましたら、記載してください。

B0 支援機関の応募資格

応募資格	☐ 募集要項に記載する「応募要件」を満たす。	※チェックがない場合、応募を受け付けできません。
	☐ 募集要項に記載する「留意事項」を了承する。	※チェックがない場合、応募を受け付けできません。

B1 応募者基本情報（推薦者となる支援機関）

ふりがな	現住所		
機関名	〒 -		
ふりがな	部署		
担当者氏名	役職		
ご連絡先	TEL		
	E-mail		
URL			

B2 推薦理由

推薦理由をビジネス面と人物面に分けて記載してください。
推薦者から見た起業家の特徴を記載してください。また、現在の女性の起業フェーズ等を記載してください。

B3 推薦者が予定している支援内容

推薦者が予定している支援内容とその機関を記載してください。これまで起業希望者に対して実施した支援があれば、内容及びその成果や課題等を記載ください。

B4 推薦者から見た支援を期待する項目

推薦者自身の支援項目に加えて支援を期待する項目（ビジネスモデル、事業計画、資金調達、マーケティング、知財等）とその理由を記載してください。また本事業期間中のゴールイメージ（事業計画書作成、資金調達、プレマーケティング等）があれば記載ください。（本内容に沿って、「2～3番程度の支援機関」を選出します。なお、本ネットワークでの検討により、ご提供する支援が変更となる可能性や、一部希望に沿えない可能性もある旨ご了承ください。）

B5 本プログラムを通して達成したいこと

推薦者自身の支援に関する課題、本プログラムに対する期待や熱意、支援機関としての成長の方向性について記載してください。
また、本プログラムにおいて他の支援機関とどう連携するか、イメージがあれば記載してください。

参考資料2： 申込フォーム（起業起業家向け ②女性起業家のみ応募）

▶ 女性起業家の選定にあたり、②女性起業家のみでの募集時に用いた申込フォームは以下のとおりです。

経済産業省
令和4年度「わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム」
申込フォーム

以下の項目に記入いただき、ご応募ください。

A0 起業希望者の応募資格

応募形式	☐ 個人		
	☐ チーム	メンバー数	名
応募資格	☐ 募集要項に記載する「応募要件」を満たす。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。		
	☐ 募集要項に記載する「留意事項」を了承する。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。		

A1 応募者基本情報(起業希望者、チームで応募する場合、その代表者)

ふりがな		生年月日	西暦	年	月	日(満)	歳)
氏名		現住所	〒 -				
ふりがな							
ご所属							
ご職業	☐ 学生 ☐ 会社員 ☐ 自営業 ☐ その他 ()						
ご連絡先	TEL						
	E-mail						
本人以外の緊急連絡先	氏名						
	TEL						
	E-mail						

A2 事業名

事業形式、内容、想定している提供価値を要約してください。
(例：所在地周辺の授乳室の位置及び設備状況を検索可能なアプリ開発による子育ての利便性への貢献、地域の空き家利活用によるワーケーションの促進とコミュニティ活性化)

A3 事業内容

事業のミッション、内容、社会や市場・顧客に対する提供価値について記載してください。また、課題解決やニーズ対応の手段としての独自性、新たなサービス・製品としての革新性、社会に対するインパクト、将来的な波及効果などが見込まれる場合は、ご記入ください。起業予定時期・創業予定地・自己資金等想定しているものがあれば、可能な範囲で記載してください。

A4 課題解決やニーズ対応への思い

起業による課題解決やニーズ対応の思いについて記載してください。また、事業の対象として設定する課題やニーズについて、社会性や独自の観点がある場合はご記入ください。

A5 SDGs対象ゴール

事業内容に対応するSDGsのゴールがある場合、すべて選択してください。 ※SDGsの詳細については外務省ホームページ (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>) をご参照ください。

☐ 1: 貧困	☐ 2: 飢餓	☐ 3: 保健	☐ 4: 教育	☐ 5: ジェンダー	☐ 6: 水・衛生
☐ 7: エネルギー	☐ 8: 経済成長と雇用	☐ 9: インフラ、産業化、イノベーション			
☐ 10: 不平等	☐ 11: 持続可能な都市	☐ 12: 持続可能な消費と生産			
☐ 13: 気候変動	☐ 14: 海洋資源	☐ 15: 陸上資源	☐ 16: 平和	☐ 17: 実施手段	

A6 支援を期待する項目

期待する支援項目を選択した上、求める具体的な支援内容とその理由を記載してください。また、本事業期間中のゴールイメージ(事業計画書作成、資金調達、プレマーケティング等)を記載ください。
(本内容に沿って、支援機関を選出します。なお、本ネットワークでの検討により、ご提供する支援が変更となる可能性や、一部希望に沿えない可能性もある旨ご了承ください。)

☐ マインド_経営的視座	☐ マインド_起業家精神
☐ マインド_リーダーシップ	☐ スキル_マネジメント力
☐ スキル_プレゼンテーション力	☐ スキル_交渉力
☐ ノウハウ_組織運営	☐ ノウハウ_事業計画
☐ ノウハウ_マーケティング	☐ ノウハウ_資金調達
☐ ノウハウ_財務会計	☐ ノウハウ_契約・法務
☐ ノウハウ_IT活用	☐ ネットワーク拡大_人的ネットワーク
☐ ネットワーク拡大_交流の場	☐ ネットワーク_ロールモデル

参考資料2： 申込フォーム（起業起業家向け ②女性起業家のみ応募）

- ▶ 女性起業家の選定にあたり、②女性起業家のみでの募集時に用いた申込フォームは以下のとおりです。（つづき）

A7 希望する支援機関

経済産業省「わたしの起業応援団」メンバー機関に、希望する支援機関がありましたら、併せてご記入ください。

※経済産業省「わたしの起業応援団」応援者一覧：<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/joseikigyoka/supportsearch.html>

（本内容に沿って、支援機関を選出します。なお、本ネットワークでの検討により、ご提供する支援が変更となる可能性や、一部希望に沿えない可能性もある旨ご了承ください。）

A8 これまでの活動内容

起業に向けてこれまでに行った活動等を記載してください。他の類似プログラムへの加入実績や、ビジネスプランコンテストでの出場・入賞実績があれば、ご記入下さい。

A9 起業フェーズ

2022年7月1日時点のご自身の起業フェーズを1つ選択してください。起業フェーズの詳細は募集要項のP2をご参考ください。

- ☐ フェーズ0（起業に関する情報収集段階）
- ☐ フェーズ1（起業してみたい想いがあり、何からどう始めたらよいか知りたい）
- ☐ フェーズ2前半（起業に向けてまずはいろいろ学びたい、必要な支援・環境を整えたい）
- ☐ フェーズ2後半（起業に向けて事業プランを作ってみたい、起業に向けて準備をしたい）
- ☐ フェーズ3前半（起業から1年未満）
- ☐ フェーズ3後半（起業後3年から5年）

A10 起業における心配点、気になっていること、大事にしたいこと

起業における心配点、気になっていること、大事にしたいことを記載してください。

また、生活面での不安や事業の成長スピードと生活スタイルのバランス等、気になっていることを記載してください。

A11 自己PR・その他

自己PR、女性起業家としての成長意欲、その他に記載したい事項がありましたら、記載してください。

参考資料3： 申込フォーム（支援機関向け）

▶ 支援チームの構築にあたり、支援機関の募集時に用いた申込フォームは以下のとおりです。

経済産業省
「わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム」
申込フォーム（支援機関向け）

以下の項目に記入いただき、ご応募ください。

C0 支援機関の応募資格

応募資格	☐ 募集要領に記載する「応募要件」を満たす。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。
	☐ 募集要領に記載する「留意事項」を了承する。 ※チェックがない場合、応募を受け付けできません。

C1 応募者情報（支援機関）

ふりがな	現住所		
機関名	〒 -		
機関種別	☐ グループ1 ☐ グループ2 ☐ グループ3 ☐ グループ4 ☐ グループ5 ☐ その他（ ） ※グループの詳細については、募集要領のP3をご参照ください。		
ふりがな	部署		
担当者氏名	役職		
ご連絡先	TEL		
	E-mail		
URL			
令和3年度「わたしの起業応援団による女性起業家支援プログラム」におけるコア機関またはメンバー機関としての参加経験			
☐ あります ☐ ありません			

C2 応募対象

応募対象とする事業を希望順に選択してください。複数の事業への応募を希望する場合は、第2希望、第3希望も選択してください。
また、女性起業家が単独応募の事業に対して、コア機関になる希望の有無についても、選択してください。
※事業の詳細については、募集要領のP3～7をご参照ください。

支援事業	第1希望： 選択してください	第2希望： 選択してください	第3希望： 選択してください
支援形態	第1希望： 選択してください	第2希望： 選択してください	第3希望： 選択してください

C3 応募対象の選択理由

応募対象の事業を選択した理由について記載してください。複数の事業を選択された場合は、順位付けの理由を含め、それぞれの選択理由について希望順にご記入ください。（例：第1希望の理由、第2希望の理由、第3希望の理由）

C4 応募者が予定している支援内容

応募者が予定している支援内容を選択した上、その理由及び期待される効果を記載してください。なお、起業希望者が期待する支援以外に、独自の観点からの支援内容があればご提案ください。複数の事業を選択された場合は、それぞれの支援内容についてご記入ください。（例：第1希望の支援内容、第2希望の支援内容、第3希望の支援内容）

☐ マインド_経営的視座 ☐ マインド_リーダーシップ ☐ スキル_プレゼンテーション力 ☐ ノウハウ_組織運営 ☐ ノウハウ_マーケティング ☐ ノウハウ_財務会計 ☐ ノウハウ_IT活用 ☐ ネットワーク_拡大_交流の場	☐ マインド_起業家精神 ☐ スキル_マネジメント力 ☐ スキル_交渉力 ☐ ノウハウ_事業計画 ☐ ノウハウ_資金調達 ☐ ノウハウ_契約・法務 ☐ ネットワーク_拡大_人的ネットワーク ☐ ネットワーク_ロールモデル
---	---

C5 本プログラムを通して達成したいこと

応募者自身の支援に関する課題、本プログラムに対する期待や熱意、支援機関としての成長の方向性について記載してください。
コア機関を希望する場合、コア機関として達成したいことも併せて記載してください。

C6 これまでの活動実績

直近3年間に於いて、女性起業希望者に対して実施した支援があれば、対象、内容、成果等を記載ください。過去に他の支援機関と連携実績があれば、記載ください。

参考資料4： 伴走支援における留意事項

- ▶ 伴走支援の実施における留意事項を下記のとおりとりまとめ、女性起業家、コア機関、メンバー機関、アドバイザーに共有しました。

募集要領に記載の応募要件、参加費、留意事項に加えまして、機密情報の取り扱いにご留意ください。

<募集要領>

● 応募要件

- ▶ 本プログラムを最後まで遂行する意志があること。
- ▶ 本事業が提供するプログラムに原則としてすべて参加できること。
- ▶ 法令等または公序良俗に反する行為を行っていないこと。
- ▶ 応募内容に不備がある場合または虚偽の情報・申告を行っていないこと。

● 参加費

- ▶ 応募者（起業希望者、支援機関）に対する資金の提供は含まれません。
- ▶ 通信費に関わる費用等は応募者のご負担となります。
- ▶ 起業希望者に対し有償支援サービスの提供が必要となる場合は、必要性をアドバイザー及び「支援チーム」内で検討し、起業希望者の合意のもと提供すること。

● 留意事項

- ▶ 申込フォームに記載いただいた個人情報については、本プログラムに関わる目的以外には使用いたしません。
- ▶ 採択された場合、ご提供いただく個人情報を含む応募情報は、経済産業省、本ネットワーク及び本プログラム事務局において必要な範囲で共有され、事前の承諾なく第三者に提供することはありません。また、提出いただいた資料類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ▶ 申込フォームの記載内容に虚偽があることが判明した場合、その採択を取り消すことがあります。

<機密情報の取扱い>

- ▶ 本事業で取り扱う採択事業及び支援機関の情報や個人情報につきましては、当事業に関わる業務に使用する目的以外には使用しないことをご了承ください。

参考資料5：FAQ

- ▶ 伴走支援の実施にあたり想定される質問について下記のとおりFAQとしてとりまとめ、女性起業家、コア機関、メンバー機関、アドバイザーに共有しました。

<参加者・事務局の役割について>

Q1. 起業希望者は本事業で何ができますか。	A1. メンタリングにおいて、コア機関、メンバー機関、アドバイザーの支援を得ながら、事業を進めます。必要に応じて、コア機関、メンバー機関、アドバイザーに対して適時の相談を行うことも可能です。定例会において、情報の共有や意見交換を行います。伴走支援終了後、事務局が作成した成果報告の確認を行います。各事業の最終意思決定者は起業希望者となります。
Q2. コア機関の役割を教えてください。	A2. 支援チームのコア機関として、伴走支援の進捗管理とメンタリングの調整・運営を行います。なお、コア機関が支援内容の一部を担うメンバー機関としての役割を兼ねる場合があります。定例会や支援機関会合において、情報の共有や意見交換を行います。伴走支援に関するエクセルの管理シートの記載をメンバー機関に依頼し、とりまとめて更新し、月に1回の頻度で事務局に提出します。伴走支援終了後、事務局が作成した成果報告の確認を行います。
Q3. メンバー機関の役割を教えてください。	A3. 支援チームのメンバー機関として、伴走支援の目標達成に向けた支援内容の一部を担います。メンタリングにおいて、起業希望者に対する支援を行います。各メンバー機関は、自らが想定する支援内容について、対応可能な範囲をすべて提案することとします。他のメンバー機関と支援内容が重複する場合は、「Q13. 意見の食い違い時や支援の必要性に疑義が生じた時、推薦者となる支援機関や起業希望者が適切に判断できない場合はどうしたらよいですか。」の回答のとおり）のように定めます。定例会や支援機関会合において、情報の共有や意見交換を行います。また、起業希望者からの適時の相談を受け、支援を行います。伴走支援に関するエクセルの管理シートを更新し、コア機関に提出します。伴走支援終了後、事務局が作成した成果報告の確認を行います。
Q4. アドバイザーの役割を教えてください。	A4. 定例会において、起業希望者・支援チームに対する助言を行います。支援機関会合において、支援チームに対する助言を行います。必要に応じて、メンタリングの同席や支援チームのコア機関・メンバー機関から適時の相談を受け、経験の共有及び支援方法の助言を行います。伴走支援終了後、事務局が作成した成果報告の確認を行います。
Q5. 事務局の役割を教えてください。	A5. 定例会・支援機関会合を主催します。必要に応じて、メンタリングに同席します。各事業の進捗状況について把握し、必要に応じてフォローやリマインドを行います。起業希望者・コア機関・メンバー機関・アドバイザーからの伴走支援に関する問い合わせに対応します。必要に応じて、全体に通知を行います。伴走支援終了後、成果報告の作成を行います。

参考資料5：FAQ

<伴走支援の進め方について①>

Q6. 伴走支援の全体管理はどこが行いますか。	A6. 支援チームのコア機関が伴走支援の全体管理を行います。必要に応じて、事務局が全体管理のフォローやリマインドを行います。
Q7. 第1回のメンタリングはどこが主導して実施しますか。	A7. 事務局が主催し、日程調整と進行を行います。
Q8. 第2回以降のメンタリングはどこが主導して実施しますか。	A8. 支援チームのコア機関が主催し、日程調整と進行の役割を担います。ただし、各回の支援内容に応じて、メインとなるメンバー機関が主導して日程調整や進行を行うことも可能です。
Q9. メンバー機関あるいは起業希望者がメンタリングに出席できなくなりました、どうすればよいですか。	A9. コア機関に連絡をし、チームで相談のもと、日程を適宜再調整してください。
Q10. 定例会・支援機関会合に出席できなくなりました、どうすればよいですか。	A10. 事務局に連絡をしてください。起業希望者あるいはコア機関の担当者が参加できなくなった場合は、事業内容や支援内容を説明できる代わりの方が説明してください。会合終了後、出席者は欠席者（企業希望者あるいはコア機関）に対して、会合で得た意見等を共有してください。
Q11. 起業希望者が希望する支援内容を変更したい場合は、どうしたらよいですか。	A11. 支援機関が対応可能な範囲の変更の場合は、支援チーム内で相談し、支援機関・起業希望者双方の合意のもと、変更してください。支援機関の変更や中止を伴うような支援内容の大きな変更については、事務局にご相談ください。
Q12. 各メンバー機関が計画していた支援内容や時期を変更したい場合は、どうしたらよいですか。	A12. 各メンバー機関はコア機関と起業希望者に相談し、支援機関・起業希望者双方の合意のもと、変更してください。
Q13. 意見の食い違い時や支援の必要性に疑義が生じた時、推薦者となる支援機関や起業希望者が適切に判断できない場合はどうしたらよいですか。	A13. 支援チームのコア機関がアドバイザーあるいは事務局に相談した後、コア機関は起業希望者に打診し、最終的には起業希望者が決定します。決定事項について、コア機関がメンバー機関に起業希望者の意思を伝達します。
Q14. 費用を要する支援内容を実施したい場合は、どうしたらよいですか。	A14. 起業希望者に対し有償支援サービスの提供が必要となる場合は、必要性をアドバイザー及び「支援チーム」内で検討し、起業希望者の合意のもと提供してください。

参考資料5 : FAQ

＜伴走支援の進め方について②＞

Q15. 起業希望者、コア機関、メンバー機関、アドバイザーとのやりとりは、どうしたらよいですか。	A15. 電話、メール、SLACK上でのやりとりを想定します。メール、SLACKについては、情報共有が適切に行われるよう、起業希望者・支援チーム・アドバイザー・事務局を含めてやりとりをしてください。
Q16. 支援チーム内のやりとりには事務局を含めるのでしょうか。	A16. 各事業の進捗状況を事務局で把握するため、メールやSLACKに事務局を追加してください。ただし、事務局へ明示的な打診があった時以外、基本的には発言はしません。事務局の宛先や担当者について、別途ご連絡します。
Q17. エクセルの管理ツールはどのように利用するのでしょうか。	A17. 伴走支援のフェーズに応じて、指定のエクセルフォーマットに情報を記載いただきます。コア機関にとりまとめていただき、以下のタイミングで事務局にご提出ください。 ①目標設定・役割分担・②メンタリングの計画 ⇒①・②を第1回定例会の開催後を目途に提出 ③メンタリングの実行状況 ⇒月1回（月末）に提出 ④振り返り ⇒第4回支援機関会合の開催後を目途に提出